

おすすめ! 日本と世界の子どもの本

Japanese and Translated Children's Books

2025



JBBY

田島 征彦（たじま ゆきひこ）

1940 年大阪府堺市生まれ。画家。京都市立美術大学染織図案科卒。1976 年から型染めによる絵本の出版を開始し、デビュー作『祇園祭』で第 6 回世界絵本原画展金牌を受賞。1979 年には『じごくのそうべえ』で第 1 回絵本にっぽん賞を受賞。その後も精力的に作品を生み出し、小学館絵画賞、ライブチビ国際図書デザイン展銀賞など数々の受賞歴を持つ。近年では『ふしぎなともだち』で第 20 回日本絵本賞大賞、『なきむしせいとく』で第 54 回講談社絵本賞を受賞している。他に『そうべえごらくへゆく』『そうべえまっくろけのけ』など多くの作品がある。2024 年 IBBY オナーリストに選ばれた。

おすすめ！日本と世界の子どもの本

2025

もくじ

- 2 | 選書・執筆チーム紹介
- 3 | はじめに
- 4 | おすすめ！日本の子どもの本
日本の絵本（15 点）
- 7 | 日本の読みもの（20 点）
- 10 | 日本のノンフィクション（20 点）
- 14 | まだまだあります おすすめ本（28 点）
- 15 | おすすめ！世界の子どもの本
世界の絵本（17 点）
- 18 | 世界の読みもの（18 点）
- 21 | 世界のノンフィクション（8 点）
- 23 | まだまだあります おすすめ本（28 点）

選書・執筆チーム紹介

五十音順



奥山 恵（おくやま・めぐみ）【日本】

児童文学評論家。都立高校教員を経て、現在は児童書専門店 Huckleberry Books 店主。白百合女子大学、二松学舎大学非常勤講師。著書に『〈物語〉のゆらぎ 見切れない時代の児童文学』（くろしお出版）『多層性のレッスン』（りょうゆう出版）、共著に『「時」から読み解く世界児童文学事典』（原書房）、『子どもの読書を考える事典』（朝倉書店）など。JBBY 会員。



坂口美佳子（さかぐち・みかこ）【日本・世界】

科学読物研究会会員。「科学の本と体験のキャッチボールを」をモットーに、科学あそび、小・中・大学の授業、図書館、児童館職員、読み聞かせボランティア対象の研修会などで毎年約 270 回講師として活動。著書に『科学のふしぎ 1』（フレール館）、『いのちと福祉のねだん』（大月書店）、訳書に『ファラデーと電磁力』（パワーアーズ作、玉川大学出版部）、共著に『理科読をはじめよう』（岩波書店）など。JBBY 会員。



さくま ゆみこ 【日本・世界】

翻訳家、編集者、元青山学院女子短期大学教授。アフリカ子どもの本プロジェクト（JACBOP）代表。出版社に勤務しながら、子どもの本の翻訳を始め、約 250 点の訳書がある。「マディソン通りの少女たち」シリーズ（ウッドソン作、ポプラ社）で 2002 年 IBBY オナーリスト・翻訳作品部門に選出された。著書に『エンザロ村のかまど』（福音館書店）など、最近の訳書に『わたしは反対！』（リヴィ文、子どもの未来社）などがある。JBBY 前会長。



笹岡智子（ささおか・ともこ）【世界】

イタリア書籍専門店で勤務後、板橋区立中央図書館（いたばしポロニヤ絵本館併設）職員として、外国語絵本の蔵書構築、「絵本のまち板橋」事業、ポロニヤ市立サラボルサ児童図書館との姉妹図書館交流などに携わる。2023 年 4 月より（公財）東京子ども図書館職員。児童図書館研究会会員。JBBY 理事。



神保和子（じんぼう・かずこ）【世界】

家庭文庫・子どもの本の家ちゅうりっぷ主宰。中央大学非常勤講師（司書課程児童サービス論）。専門は幼児教育学。幼稚園教諭、図書館司書、保育専門学校専任講師を歴任。図書館や幼稚園、子育て支援施設等で絵本講座、わらべうた講座などの講師を務めている。日本子どもの本研究会理事、日本保育学会会員、絵本学会会員。元 JBBY 理事。



土居安子（どい・やすこ）【日本・世界】

大阪国際児童文学振興財団（IICLO）理事・総括専門員。読書活動や日本児童文学史に関する研究を行うと同時に、教員、司書等に対し、読書活動にかかわる研修や、国内外の児童文学作家の講演会やシンポジウムの企画等を行っている。共編著書に『ひとりではめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド 200』（評論社）などがある。2018 年と 2020 年の国際アンデルセン賞国際選考委員。JBBY 専務理事。



野上 暁（のがみ・あきら）【日本】

本名・上野明雄。小学館に勤務し、『小学一年生』編集長、児童図書担当部長、取締役、小学館クリエイティブ代表取締役社長を歴任。主著に『日本児童文学の現代へ』（バロル舎）、『越境する児童文学』（長崎出版）、『子ども文化の現代史』（大月書店）、編著に『わたしが子どものころ戦争があった』（理論社）など。日本ベンクラブ常務理事、JBBY 副会長。



広松由希子（ひろまつ・ゆきこ）【日本・世界】

絵本の作家、評論家、キュレーター。著書に『日本の絵本 100 年 100 人 100 冊』『ようこそ地獄へ』（玉川大学出版部）、訳書に『旅するわたしたち』（R. ロマニエシ & A. レシウ作 プロンズ新社）『ナンティー・ソロ 子どもたちを鳥にかえたひと』（D. アーモンド文、L. カーリン絵、BL 出版）、編集した本に『ちきゅうパスポート』（同）など。ポロニヤ展、BIB など国際審査員を歴任。JBBY 副会長。

はじめに

JBBY（日本国際児童図書評議会）は、IBBY（国際児童図書評議会）の日本支部として、1974年に創設されました。IBBYは、子どもたちが生きやすい平和な未来を築くため、子どもの本を通してさまざまな国や地域との相互理解を深めようという国際ネットワークで、現在85の国と地域が加盟しています。そして「子どもの本の世界大会」の開催、「国際アンデルセン賞」、「IBBY朝日国際児童図書普及賞」などの贈賞、災害や戦争などの不安定な状況下にある子どもを本で支援する「チルドレン・イン・クライシス基金」の提供などを行っています。

JBBYは、子どもの本を通して日本と世界の間に橋を架ける活動を行っています。その一環として、国際的な賞などへの日本の作家や画家の推薦や作品の出展を通して、日本の子どもの本を世界にアピールしています。また、日本児童教育振興財団や出版社のみなさまのご協力のもと、2015年度からは、毎年、海外に紹介したい日本のすぐれた子どもの本約80点を英文で紹介する *Japanese Children's Books* を発行し、海外のブックフェアや国際会議、大使館や図書館などで役立てていただいています。2018年からは、その日本語版である「おすすめ！日本の子どもの本」とともに、日本の読者に読んでほしい翻訳作品を集めた「おすすめ！世界の子ども本」の2種のブックリストを作成してきましたが、今年度より2種を合本にすることにいたしました。

ブックトークや読み聞かせ、図書館のコーナー作りなどにもどうぞ活用ください。こうした作品が国際理解の一助となり、日本じゅうの子どもたちの心に種をまくことにつながるように願っています。

2025年3月 JBBY会長 宇野和美

『おすすめ！日本と世界の子ども本 2025』について

このブックリストは、長年子どもの本にかかわる仕事をしている8名が討議を重ねて、選書・執筆しました。日本編（海外に紹介したい日本の子どもの本）と世界編（日本の読者に読んでほしい翻訳作品）の2部構成で、それぞれ（1）絵本（2）読みもの（3）ノンフィクション の3つのカテゴリーに分かれています。各カテゴリー内は、対象年齢別に書名の五十音順で掲載しています（対象年齢は出版社の表示とは異なる場合があります）。

紙幅の関係で解説が掲載できなかったおすすめ本もリストアップし、それぞれの巻末に掲載しています。

「日本編」の選書方針は……

- ・ 日本で出版された海外にも紹介したい児童書
（この号では2023年9月～2024年6月に出版された作品）
- ・ 日本の子どもの本を代表するような、すぐれた内容の作品
- ・ 海外の子どもたちが、日本の文化や、日本の子どもの現状に触れることのできるような作品
- ・ 海外での翻訳出版を期待したい作品
- ・ 日本の子どもたち、保護者、図書館・出版関係者にも紹介したい作品

「世界編」の選書方針は……

- ・ 原作の内容および翻訳がすぐれている児童書
（この号では2023年1月～12月に日本で出版された作品）
- ・ 子どもと本をつなぐ人たち、保護者、図書館・出版関係者にぜひ紹介したい作品
- ・ 日本の子どもたちが海外の歴史や文化に触れ、読書の楽しみを広げられる作品
- ・ 世界の多様性について理解を深められる作品

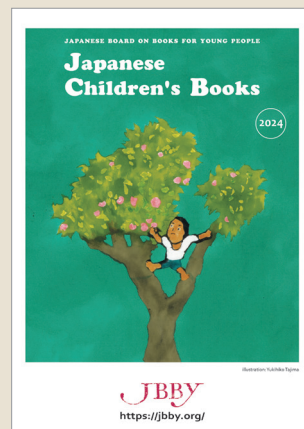
* 今回の選書対象が「日本編」と「世界編」でずれているのは、刊行時期がそれぞれ前号を引き継いでいるためです。



「おすすめ！日本の子どもの本 2024」



「おすすめ！世界の子ども本 2023」



Japanese Children's Books

PDF → <https://jbby.org/japanese-childrens-books-jbbys-recommendation>

凡例

紹介する本には、書名のあとに以下を記しています。

作者 | 画家、翻訳者など | 出版社 | 出版年 | 原書出版国（言語） * 世界編のみ
| ページ数 | サイズ（縦横、cm） | 本体価格（初版刊行時） | 読者対象 | キーワード
（書誌情報は国立国会図書館などを基本に作成）

紹介文の末尾には執筆者の名前を記しました。

* 選者自身の著書は、別の選者が選書・執筆しました。

おすすめ！ 日本の子どもの本

日本の絵本



くまくんです。

村上康成 作

ひさかたチャイルド | 2024 | 32p | 25×22
| 1400円 | 幼児から | クマ、自然、共生、
成長

春、母グマとの冬眠から目覚めたくまくんは「やっほーい！」と巣穴から飛び出す。山菜、若葉、木の実……もりもり食べ、生きる術を学び、日に日に成長していく。初夏、くまくんがキイチゴを夢中で食べている間に、母グマは姿を消していた。繁殖期を迎えたツキノワグマの母親が1、2歳の子と別れる「イチゴ落とし」という生態が題材。まだあどけない子グマが自立して歩き出し、他の生物と出合っていく様子に、自然の摂理とともに、地球の大きな懷に抱かれて共に生きる喜びを感じる。ミニマルな絵から自然の息吹を想像できる。(広松)



クリスマスマーケット

ちいさなクロのおはなし

降矢なな 作

福音館書店 | 2023 | 39p | 26×27 | 1500円
| 幼児から | クリスマス、イヌ、冒険、
スロバキア

12月、町にクリスマスの市が立つ。ある朝、広場のツリーの根元で捨てイヌがみつかった。飼う人がいないまま「クロ」と名付けられたイヌは、お母さんと市にやってきた「なーちゃん」と出会う。白いイヌのぬいぐるみを気づかずに落としていったなーちゃんを懸命に追いかけて、出店の立ち並ぶ市場を縦横に走り回るクロを、読者も目で追い、ページをめくらずにはいられない。スロバキアに30年以上暮らしてきた作者が、愛情を込めて描く異国の風物詩。変化に富んだ構図と色彩で、人々の表情やざわめき、光やにおいも豊かに伝える。(広松)



たべるぞ たべるぞ

田島征三 作

佼成出版社 | 2023 | 38p | 24×25 | 1400円
| 幼児から | 食、生命力、生きもの、季節

子ヤギはおっぱいをごくごく飲んで、人々は花見でごちそうを囲み、雛たちはくちばしを必死で開き母鳥に虫をねだる。季節のゆるやかな流れに沿い、生きもののたちの「食べる」シーンが、「たべるぞ たべるぞ」というキーフレーズとともに展開される。動物も鳥も魚も虫たちも、同じ地球の上で食べて生きている。食べることは楽しくもあるが、命懸けでもある。日本の絵本界の第一線を60年以上走り続けてきた作者は、食べることは生きることだと、力強くユーモラスに語りかける。勢いのある大胆な筆致から、生命力がほとばしる。(広松)



ふゆのあとには はるがきます

石井睦美 作 | あべ弘士 絵

アリス館 | 2023 | 32p | 26×24 | 1500円
| 幼児から | 雪、自然、動物

冬の訪れを告げる雪虫が飛んだ数日後、深夜から雪が降り始める。ひらひら舞うように、やがてもくもくと空から湧いてくるように降る雪の中で静かに佇む鳥たち。一夜明けたら一面の銀世界。見事な場面展開と情景描写から、初雪の日のうきうきした気持ちが鮮明に伝わる。雪が毎日降ったりやんだりする雪国の暮らしと、そこに生きる鳥や小動物たち。冬眠中のクマは子どもたちと日向ぼっこする夢を見る。陽の光が日ごとに強くなり雪が溶けて春が来る。雪国を舞台に冬から春に向かう季節の移ろいと鮮やかな雪の描写は秀逸だ。(野上)



てんじつきさわるえほん ぼうけんしよう!

スギヤマカナヲ 作

偕成社 | 2024 | 11p | 21×25 | 2800円
| 幼児から | 点字、冒険、迷路

2本の指をユビッキーというキャラクターの足にみたて、その足で浮き出た線をたどり、もう片方の手でページの中でこぼこをさわりながら冒険を楽しむバリアフリー作品。点字（さわって読む文字）と墨字（目で見て読む文字）で書かれている。冒険の途中に行き止まりの道や、くねくね道や、川や、穴がある。QRコードで音声も聞くことができる。ユビッキーの紙人形と勇者のカードの付録がついていて、「ぼうけんのてびき」と軍手を使ったユビッキーの作り方も掲載されている。著者は、絵本作家であり、「手で見る学習絵本 テルミ」の編集長。(土居)



まじょの すいぞくかん

佐々木マキ 作

福音館書店 | 2023 | 31p | 20×27
| 1000円 | 幼児から | 魔法、水族館、ナンセンス

女の子とイヌが森へ行くと、なにもなかった原っぱに水族館が建っていた。いくつもの水槽に「アマゾンのはんぎょじん」や「テングザメ」、「ブタフグモドキ」など、変な魚ばかりがいる。水中から「たすけてくれえ……ぶくぶく」と微かな声が聞こえてきた。女の子が水槽の水を抜き、魔法がとけた魚たちが次々と元の姿に戻ったところへ悪い魔女が帰ってきた。危機一髪！ かと思いきや物語はゆかいに展開。幼い読者も謎めいたスリルを笑って楽しめる。コミカルな造形とネーミングセンスが効いている。『まじょのかんづめ』の続編。(広松)



ゆきのゆきちゃん

きくちちき 作

ミシマ社 | 2023 | 32p | 31×23 | 2500円
| 幼児から | ネコ、雪、遊び、名前

「ゆきちゃん」はネコだけど、寒い日の散歩も好き。降る雪を見て、自分と同じ名前なのを不思議に思い、他の動物にその理由を尋ねて回る。雪のように「ふわっとしてるから」「きれいだから」。そう教えてくれたリスやフクロウも同じくふわっとしているし、きれいなのだ。同じがうれしい仲間は「ふわっと ゆきつかみ」や「きれいに ゆきおとし」など、雪遊びをふくらませていく。雪の日の子どもたちの素朴な喜びや興奮が、伸びやかな筆で描かれる。銀のインクを用いた特色印刷や紙の触感も、雪の日を効果的に表現している。(広松)



アチケと天のじゃがいも畑 ペルーのむかしばなし

宇野和美 作 | 飯野和好 絵

BL出版 | 2024 | 32p | 29×21 | 1800円
| 小学低から | 昔話、魔女、ジャガイモ

貧しい孤児の姉と弟が食べものを探していると、アチケという魔女に出会う。アチケに招き入れられて食われそうになったふたりは魔女の家を脱出し、コンドルやピューマを味方につけて草原まで逃げていく。ふたりの祈りに応えて天から降りてきた綱をのぼると、そこはなんと一面のジャガイモ畑。魔女も綱を上って追ってくるが墜落し、落ちた所に険しい山々ができる。アンデス山脈や、この地域が原産のジャガイモにまつわる昔話で、逃げていく子どもたちを野生動物が助けるのもおもしろい。迫力のある絵がハラハラする物語を支えている。(さくま)

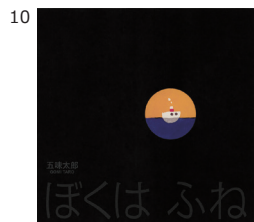


こどもべやのよる

出久根 育 作

岩波書店 | 2024 | 40p | 22×16 | 1200円
| 小学低から | 姉妹、天使、冒険

夜が来ると、「まっくろ」にのみ込まれそうで、怖くてたまらないいっちゃん。白い優しい月だけが頼りだったが、ある時、お父さんがもらってきた大きな人形の天使が、いっちゃんを連れて夜の空を飛んでくれる。また、お姉ちゃんや妹たちと、二段ベッドで作った船で海へ出かけたときも、クジラに吹き飛ばされたいっちゃんたちを天使が助けてくれる。子ども部屋から始まる冒険を重ねて、夜に親しんでいく絵物語。『ちいさいうちう』『ひとまねこざる』などロングセラーも多い「岩波の子どもの本」シリーズ創刊 70 年記念の新刊。(奥山)

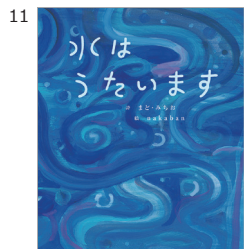


ぼくは ふね

五味太郎 作

福音館書店 | 2024 | 32p | 25×25 | 1800円
| 小学低から | 船、旅、自我

「ぼくは ふね」と一人称で語る船が主人公。水に浮かび気ままに進んでいたが、大きな船から邪魔にされ、「どこからきたの?」「どこへゆくのか?」と他の船からの質問に悩む。嵐に遭い、陸に捨てられ、もう動けないと絶望した後「そのきになれば どこだってすめる」と気づかされ、自由を得る。半抽象的な絵にちりばめられた遊びを発見するもよし、哲学的に読み込むもよし。デビュー 50 年を迎えた作者の「ぼくは ぼく」という独白とも受け取れる作品。黒いケースにフラットな造本、白いフレームの画面のデザインも特別感がある。(広松)



水は うたいます

まど・みちお 詩 | nakaban 絵

理論社 | 2023 | 32p | 28×23 | 1900円
| 小学低から | 水、地球、詩、オノマトペ

やさしい言葉で世界の本質をとらえ、1994 年に国際アンデルセン賞作家賞を受賞した詩人が 105 年の人生で残した詩を、1 編ずつ取り上げて絵本にした「まど・みちおの絵本」シリーズの 1 冊。身近な水の豊かな表情を、おおらかな筆と柔らかな色彩で、クローズアップして見せる。見開き 1 画面にほぼ 1 行ずつのテキストが快く響き合い、ゆっくり詩の深みを味わえる。海の「びょうびょう」、雲の「ゆうゆう」、雨の「ざんざか」など、創造的なオノマトペが五感を刺激する。地球を巡る水の姿に、大きな生命と永遠の時間が浮かび上がる。(広松)

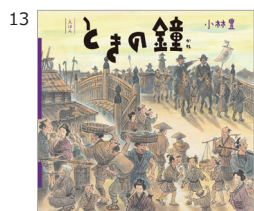


ミライチョコレート

ザ・キャビンカンパニー 作

白泉社 | 2024 | 40p | 26×21 | 1500円
| 小学低から | 未来、食べもの、ロボット

2024 年の「ニッポン」に住む「わたし」は、ある日博物館で、古い本の中の「とろけて あまい」チョコレートの記事を見つけ、どうしても食べたくなる。まちの外へと探しに行くと、古いロボットに会い、カカオの実から種をとり、すり潰し、練り上げて、一緒にチョコレートを作る。「エイヨウダマ」や「ヘソデンキ」で食糧を摂取し、空飛ぶ自動車「フライごう」で移動するラクな生活から、自分で動いて、考えて、ものを作る手作りの楽しさに気づく「わたし」。未来の服装や建物などの絵も独創的。(奥山)



えほん ときの鐘

小林豊 作

ポプラ社 | 2024 | 40p | 25×26 | 2000円
| 小学中から | 江戸、時の鐘、オランダ人

江戸時代に時刻を知らせていた鐘をめぐる物語が展開する。祖父が鐘つき役をしている新吉は、ある日、オランダ人植物学者ヤンに会って友だちになる。長崎から將軍に挨拶しに来たヤンは、日本庭園を見たいのだが、行動の自由がない。新吉は知り合いの魚屋に舟を出してもらい、川や水路を通してこっそりあちこちの庭園を案内する。絵には江戸の街並みや人々の様子がいていねいに描かれていて、飽きない。ヤンが新吉の祖父からみやげにもらった鐘が今もオランダの街で鳴っているという設定は、読者の視野をひろげてくれる。(さくま)



ピアノ

いせひこ 作

偕成社 | 2023 | 40p | 22×28 | 1600円
| 小学中から | 音楽、引越し、ファンタジー

新しい家に越してきて、留守番をしていたのんちゃんは、クローゼットの中にトイピアノをみつける。今はもういない父が買ってくれたものだ。つかえながら「カノン」を弾いていると、隣の森からピアノの音が聞こえてきた。音に導かれていくと、古い屋敷が現れ、ピアニストのおじいさんに出会う。彩り豊かな水彩のにじみを生かし、音楽を幻想的に表現した場面が秀逸。音楽を愛する作者の初のファンタジー絵本。自身の「聴こえ方」を忠実に探求したという。心細い気持ちを慰め、新しい 1 歩を踏み出させる音楽の力と喜びを伝える。(広松)



もののけdiary

京極夏彦 作 | 石黒亜矢子 絵

岩崎書店 | 2024 | 88p | 19×19 | 2000円
| 小学高から | 妖怪、恐怖、江戸時代

江戸中・後期に著された「^{いのうもののけろく}稲生物怪録」の絵本化。ひとりの青年が 16 歳の平太郎の家を訪ねて、7 月 1 日から 30 日間に毎日入れ代わり立ち代わり現れた物の怪たちについての話を聞く。1 日目は「けだらけのひとつめ」が現れ、2 日目は「なまくびおんな」が現れたと言うが、平太郎はまったく動じなかった。すると、最後には魔王が現れて、物の怪の大群と去っていった。左ページには文字が書かれ、右にはカラーの妖怪の絵があり、折り畳んだページを開くと、平太郎と妖怪たちの墨絵が現れる。妖怪たちの絵がユニーク。(土居)

日本の読みもの

16



やまの動物病院2 とらまる、山へいく

なかがわちひろ 作

徳間書店 | 2023 | 63p | 21×15 | 1700円
| 小学低から | 動物病院、ネコ、医者

「まちの動物病院」で暮らすネコのとらまるは、夜になると人間たちには内緒で「やまの動物病院」を開業する。ある夜、山からウサギがやってきて、沼のカメにとらまるを呼んできてほしいと頼まれたと言う。そこで、とらまるが沼へ行ってカメに詳しい話を聞くと、カメはムササビに頼まれただけだと言う。ムササビはイノシシに頼まれたと言う。このように、とらまるは次々と動物に出会い、出会った動物たちと一緒に往診の依頼主を訪ねて山奥まで出かける。依頼主を探す過程と、とらまると動物たちとのやりとりが楽しい。(土居)

17



ナナのおけいこ いとうひろし 作

徳間書店 | 2024 | 64p | 21×15 | 1700円
| 小学低から | ネコ、家族、冒険

ナナはユイの家で飼われているネコ。ユイが生まれたのは、ナナが自分の子を何匹も育てた後だから、「こんどは ユイちゃんのめんどろをみてあげてね」とお母さんに言われ、ナナはユイのお母さんみたいにユイにいろいろなことを教える。獲物のとり方、塀の歩き方、毛づくろいの仕方、手を使わない食べ方。ユイはネコじゃないから、ナナのお稽古についていけなくてもナナは容赦ない。成長するユイと年老いていくナナのそれぞれの視点から、ユーモラスな挿絵でふたりの奇妙な交流が描かれていく。最後の場面が哀切だ。(野上)

18



安房直子絵ぶんこ1 ふろふき大根のゆうべ

安房直子 作 | アヤ井アキコ 絵

あすなろ書房 | 2024 | 47p | 24×19
| 1500円 | 小学低から | イノシシ、大根

冬が近いある日、茂平が畑で分けてもらった大根をかごに入れて、家路を急いでいると、大きなイノシシに出会う。ほっかむりをしたイノシシは、今夜は「ふろふき大根のゆうべ」という集まりがあるから、みそを買いにいくと言うのだが、大根を1本分けてやった茂平もそこに招待される。その夜、遠くの山から集まったイノシシたちは大根から上がる湯気を見て、いろいろなことを思い出し、語り合う。もとは短編として発表された幻想的な物語に、独創的な絵をつけた絵童話シリーズの1冊。読者を不思議な世界にいざなう。(さくま)

19



ぼくのねこ ポー

岩瀬成子 作 | 松成真理子 絵

PHP研究所 | 2024 | 78p | 22×16 | 1300円
| 小学低から | ネコ、転校生

とおるは、近所に首輪のないネコがいるのに気づき、話しかける。そのネコは、雨の日でも外にいる。捨てネコだろうか？ とおるは家に連れ帰って、そのネコにポーと名を付け、餌もトイレも用意していっぱいかわいがる。ところが転校してきたばかりの森君が、飼いネコが行方不明だといって探しているではないか。ポーを手放したくないという気持ちと、返さなくてはいけないという気持ちの間で、とおるの心は揺れる。子どもの心理を見事に描いた物語に、ネコや子どもの表情を伝える絵がついて、読者は主人公に自分を重ねて読める。(さくま)

20



リリの思い出せない ものがたり

たかどのほうこ 作 | 高橋和枝 絵

ポプラ社 | 2024 | 94p | 22×16 | 1400円
| 小学低から | 記憶、お話づくり、ハンカチ

リリは、夏休みにおばあちゃんの家に泊まりにいった、おばあちゃんの友だちのフサ子さんが途中まで作った「水玉ハンカチのものがたり」を聞く。それは、女の子が水玉のハンカチをスカーフにしていたら、風で飛ばされ、いろいろな人に拾われて、ぬいぐるみのドレスになったり、手品に使われたりするという話だった。リリはずっと思い出せなかった幼い頃の記憶を取り戻し、モグラの家族が水玉のハンカチを使っていたのを見たことを語ってお話を完結させる。異年齢の友情がユニークで、お話作りの楽しさが伝わる。(土居)



- 21 **あたしデイズ**
 いとうみく 作 | 平澤朋子 絵
 新日本出版社 | 2023 | 110p | 21×16
 | 1400円 | 小学中から | 友だち、仲間外れ、
 アイデンティティ

小学4年生の睦月^{むつき}は、泊まりがけの移動教室で班を決める時、仲良くしていたコマリたちからいきなり冷たくされ、変わり者の石丸さんと同じ班になった。それ以降も、コマリたちからの仲間外れは続く。家では、ママの仕事が忙しくて孤独がつのるが、ママに自分の思いを話して理解される。それに勇気を得た睦月は、コマリたちに仲間外れの理由を聞き、自分の態度を反省する。そこへ石丸さんが現れ、失敗するのは子どもの特権だと言ってくれる。睦月が友だち関係で失敗し、それを乗り越える様子がリアルに描かれている。(土居)



- 22 **さんごいろの雲**
 やえがしなおこ 作 | 出口春菜 絵
 講談社 | 2024 | 125p | 22×16 | 1500円
 | 小学中から | ファンタジー、短編集、不思議

人や動物や木が不思議な体験をする7つの短編集。表題作は、美しいサンゴ色の雲を見て貧しいバイオリン弾きが音楽を奏でると、雲がお礼に「あなたがバイオリンをひくたびに、悲しんでいる人たちの小さな願いがかなうように。でも決して、欲深い人のためにバイオリンをひいてはいけませんよ」と魔法をかける。他に、姉弟が森の中へ野イチゴつみに行ってウサギの歌声に誘われて道に迷う「リルムラルム」、妻を亡くした王様が小鳥に誘われて虹を見る「王さまと虹」などがある。情景が目の前に浮かぶような描写が美しい。(土居)



- 23 **サンタクロースは宅配便ではありません**
 市川宣子 作 | 高橋和枝 絵
 ポプラ社 | 2023 | 126P | 21×16 | 1500円
 | 小学中から | クリスマス、プレゼント、
 サンタクロース

小学4年生の黒須三太は、クリスマスが近づくといつもうんざり。名前のせいで、からかわれるばかりでなく、今年は希望するプレゼントを書いた1年生の手紙が、学校の靴箱に入るようになった。三太に言えば願いがかなうという噂が立っているらしい。そんな時、団地の駐輪場にトナカイのルドルフが現れ、三太に「飛行訓練」を迫り、配達を手伝わせ、プレゼントは単なる商品ではなく愛情に包まれているべきだと教えてくれる。日本を舞台にした、奇想天外なサンタ物語で、クスツと笑いながら楽しく読める。(さくま)



- 24 **月さんとザザさん**
 角野栄子 作・絵
 小学館 | 2023 | 122p | 22×16 | 1300円
 | 小学中から | おばあさん、家、夜

ザザさんは森の中の一軒家にひとりで住んでいるお婆さん。文句ばかり言っているザザさんに嫌気が差したスミコさんという名の家は、ザザさんをベッドごと玄関から放り出し、すたすた歩きだす。家が出するなんて許せないと、ザザさんはノコギリをつかんで追いかける。空を散歩中の月がその様子を見て、怒ってばかりいないで少しは楽しいことを考えて笑ったらどうかと、ザザさんに言い、ザザさんとスミコさんにおもしろい話をしに夜に何度もやって来る。奇想天外な物語に作者自身が描いた挿絵もユーモラスで楽しい。(野上)



- 25 **机の下ウサギ**
 岡田淳 作
 偕成社 | 2024 | 222p | 22×16 | 1500円
 | 小学中から | ファンタジー、ウサギ、冒険

おじいちゃんの家でひとり留守番をしている一平は、雷が鳴って停電になったので、ランタンを持って机の下にもぐりこむ。机の木目がウサギに見えたと思ったら、一平は草原にいて、ウサキチと名乗る巨大なウサギに出会う。ウサキチは、一平のことをキョチと呼び、待っていたことや、はねる力を魔女にとりあげられたことを告げる。一平たちは魔女に会いにいき、ネズミや山賊やドラゴンにも会いながら、さいはて山のてっぺんまで旅をする。空想にあふれた一平たちの冒険が楽しく、キョチとは誰かなど、謎解きの要素も魅力。(土居)



- 26 **けものみちのにわ**
 水尻紅美子 作 | げみ 絵
 BL出版 | 2023 | 198p | 20×14 | 1600円
 | 小学高から | ファンタジー、おじいちゃん、
 道

小学5年生の風花がひとり暮らしのおじいちゃんに1年間毎月会いにいく様子を描いた作品。おじいちゃんの家からは生と死の境界とも異世界への道とも言える「けものみち」が続いている。ふたりは、「けものみち」から来た小さい人に出会ったり、カラスの化身のような少女に出会ったり、月が出た空に虹を見たりする。風花は、子ども時代のおじいちゃんが「けものみち」で迷子になっているのを夢で見て、おじいちゃんを救う。情景描写が美しく、不思議な体験を受け入れながらも祖父と孫が心を通わせていく様子が印象深い。(土居)



直紀とふしぎな庭

山下みゆき 作 | もなか 絵

静山社 | 2024 | 217p | 20×14 | 1350円
| 小学高から | ファンタジー、庭、妖怪

10歳の直紀が大好きなおじさんと会っていた時、おじさんが子ども時代に飼っていたネコにそっくりな白ネコが現れ、ふたりを古い家へ導く。すると不動産屋が出てきてこの家を格安で貸すといい、おじさんは家を借りる。ところが、賃貸料が格安なのは庭に妖怪が出るからで、不動産屋は化けネコだった。直紀は庭にいた妖怪たちを助けるはめになる。そんな中、化けネコが家を貸した本当の理由が明らかになる。それは、庭にいる恐ろしい妖怪に関わることだった。直紀の活躍が楽しく、妖怪も個性的で、ユーモラス。(土居)



竜が呼んだ娘①

弓の魔女の呪い

柏葉幸子 作 | 佐竹美保 絵

講談社 | 2024 | 255p | 20×14 | 1700円
| 小学高から | 王宮、呪術、母娘

何百年も前に、竜や魔女も巻き込んだ戦いに敗れ、牢獄代わりの切り立った崖に囲まれた村に生まれた少女ミア。村では10歳になった少女が竜に呼ばれると外に出ていく。2歳の時に母に去られ、魔女の弟子だったと噂される伯母に育てられたミアが竜に呼ばれ、王宮で伝説の勇者の部屋にさせられる。ところが、勇者は弓の魔女の呪いのために姿が見えない。竜や魔女たちが飛び交う王宮で、ミアは勇者の呪いを解き、王家の危機を救う壮絶な戦いの中で実の母に出会う。壮大な物語は「闇蔵の竜」「魔女の産屋」「語り部の壺」と続く。(野上)



わたしに続く道

山本悦子 作 | 佐藤真紀子 絵

金の星社 | 2023 | 254p | 20×13 | 1500円
| 小学高から | 家族、旅、外国ルーツ

リイマは、ケニア人の父と日本人の母の間に生まれ、褐色の肌に、くるくるの髪。「黒人」とからかわれ、外国人と誤解され、傷つくことも多い。前半は、そんな悩める5年生のリイマが、母の再婚相手シンちゃんの母である祖母に、ケニア旅行に誘われるまでが描かれる。そして、後半では、ケニアの色鮮やかな風景、多様な動物たち、弱肉強食の現実などに遭遇しながら、リイマは自分のルーツについて考えていく。とっつきにくい優しい祖母、誤解したり理解したりする友人たちなど、複雑な登場人物にリアリティがある。(奥山)



アップサイクル!

ぼくらの明日のために

佐藤まどか 作 | 木内達朗 絵

ポプラ社 | 2023 | 223p | 20×13 | 1600円
| 中学生から | 起業、クラウドファンディング、ビジネス

アップサイクルとは、捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること。中2の丈、紫月、中国ルーツの王ちゃんは、夏休みのグループ研究で、このアップサイクルをテーマにすると決める。紫月の大学生の姉のスタジオを借りて、まず年代物のミシンと黒板を加工してテーブルを制作。アップサイクルの楽しさに気づいた3人は、ネットを使ってこれを事業にし、社会とつながることを考える。盗難事件に遭遇しながらも、それを乗り越えて起業する中学生たちがリアルに描かれ、読者も元気をもらえそうだ。(さくま)



あるいは誰かのユーウツ

天川栄人 作 | カシワイ 絵

講談社 | 2024 | 217p | 20×14 | 1600円
| 中学生から | 中学校、性、身体

同じ中高一貫校の中学2年生たちの悩み多き日常を描く6つの短編連作集。「赤い繭」では、生理が重いあかりと、産婦人科医の母と暮らす下坂。「三段ホックとナベジャツ」では、胸が大きいBLオタク女子の愛菜と、女という性に違和感を抱える真中。その他の登場人物たちも、声変わりに直面したり、濃い体毛がコンプレックスだったり、恋愛がわからなかったり、耳年増だったり…。体質もこだわりも、それゆえ悩みもまったく違うが、それでも、違いを認め、他者を理解しようとゆるやかに交差する関係が明るい。(奥山)



girls

濱野京子 作 | 牛久保雅美 絵

くもん出版 | 2024 | 221p | 20×14 | 1500円
| 中学生から | 中学校、女性、家族

中高一貫校の中学3年生で、母とのふたり暮らしという共通点をもつ宙と紗奈と美森だが、それぞれの母の仕事も、母への思いも、男性に対する考え方も、三人三様。突然告白されたり、男性教師に恫喝されたり、父の女性蔑視に気づいたりといった日常の中の違和感もさまざま。それでも、修学旅行や写真展に出かけたり、クリスマスとともに過ごしたりしながら、語り合い、友情を育んでいく。社会におけるジェンダー意識や女性をめぐる制度の変化などを織り交ぜながら、母世代も含め女性の連帯がしなやかに描かれている。(奥山)



33

G65

石川宏千花 作

さ・え・ら書房 | 2023 | 253p | 20×14
| 1600円 | 中学生から | ブラジャー、学校、
家族、SNS

大きな胸が盗撮されてブログにあげられ、痴漢にも狙われて恐怖心を抱く中学2年生の貴和。心配する母の配慮で、1学期の途中から転校して母の妹の叔母の家から新しい学校に通うことになるが、なるべく目立たないように毎日を過ごす。悩める貴和の胸で必死に彼女を支えて見守るG 65のブラのパパ。叔母や級友や保健室の先生、推しのブログのIカップ女優などの優しさや温かさに励まされて、立ち直る貴和の姿を、パパの語りを交えて伝える構成が秀逸だ。貴和がパパの不思議な存在を薄々感知するラストも微笑ましい。(野上)



34

6days 遭難者たち

安田夏菜 作

講談社 | 2024 | 267p | 20×14 | 1500円
| 中学生から | 登山、家族、命

亡き祖父と約束した山に登れず登山部をやめた高校1年の美玖は、母の病気への不安を振り払いたい壱里沙、再婚した家族に違和感をもつ由真と、日帰り登山に出かける。しかし、初心者向けと思われた山で、下山ルートに迷い遭難。それから6日間、谷や川辺をさまよい、雨に遭い、野宿しながらの日々が、3人の視点で代わる代わる語られていく。ろくな装備もなく、食糧も乏しく、発熱や怪我に遭いながら、本音をぶつけ合う3人。生死ぎりぎりの状態で、自己を見つめ、あきらめず生きようとする姿に引き込まれる。(奥山)



35

博物館の少女2 騒がしい幽霊

富安陽子 作

偕成社 | 2023 | 365p | 19×13 | 1400円
| 中学生から | 怪異、美術品、家族、謎解き

両親を亡くして大阪から上京し、上野の博物館の怪異研究所で働く花岡イカルが主人公の2作目。イカルは、陸軍卿・大山巖邸で起こる怪異現象を探るために、幼い娘姉妹の家庭教師を装って大山家に送り込まれる。先妻を亡くした大山は、日本人で初めて海外留学した山川捨松を後妻に迎えるが、ふたりは幕末の怨敵、薩摩と会津の出身なので、あらぬ疑惑の目が捨松に向けられている。大山の娘たちも捨松になつかず、亡くなった母の亡霊を見たりする。文明開化の時代、緻密な構成で次々と起こる怪事件の謎に迫る痛快な物語だ。(野上)

日本のノンフィクション



36

うまれたよ! ヤモリ

関慎太郎 文・写真

岩崎書店 | 2024 | 30p | 29×25 | 2400円
| 幼児から | 爬虫類、ヤモリ、誕生、生態

ヤモリの、産卵から幼体が脱皮し成長していくまでの様子を、大きな写真とシンプルな文章で紹介する絵本。うまれたばかりの湿った体や、天井やガラス窓をうまく歩くための足の裏の毛などの写真は、鮮明で細かいところまでうつしだしている。ヤモリは産卵に適した場所なら何年も何匹も同じ場所で産卵する。その場所に残るおびただしい数の卵の殻や、獲物の昆虫やクモをくわえる場面の写真は、インパクトがある。巻末には、周囲に合わせて体色を変えることや、ネコの目のような縦長の瞳などについての説明もある。(坂口)



37

トガリネズミ ひみつのくらし

六田晴洋 文・写真

世界文化社 | 2024 | 40p | 23×23 | 1600円
| 幼児から | トガリネズミ、絶滅危惧種、
誕生、自然

トウキョウトガリネズミは、実は北海道にすむモグラの仲間だ。世界最小級の哺乳類で絶滅危惧種、体重はわずか2gで、4時間何も食べないと体温が維持できず死んでしまうという。そんな小さな体で北海道の原野でたくましく生き抜く姿を、さまざまな状況の写真で紹介する絵本。著者は、だれも見たことがないトガリネズミの赤ちゃんを見たいと北海道に移住した。生後28日目の独り立ちまでの赤ちゃんの貴重な様子を含む、3年をかけて丹念に撮った写真は見応えがある。巻末に詳しい解説とQRコード付き。(坂口)



どんぐり

たてのひろし 作

小峰書店 | 2023 | 33p | 22×25 | 1800円
| 幼児から | 植物、森、命、自然

秋の風が梢をゆする。たくさんのどんぐりが舞い落ちる。茶色に輝くどんぐりをノネズミがかじる。鳥がついばむ。幼虫がどんぐりに穴をあけて這い出す。生き残った実から芽が出て冬を越すと若葉が広がる。小動物が若葉を食い、残りを幼虫たちが食い尽くす。タイトル以外文字はない。モノクロで細密に描写された場面の中に、部分着色で命を象徴させる手法が斬新だ。最終見開き下段に小さく描き込んだ若木で、命の繋がりを演出するあたりも秀逸。(野上)



シロツメクサはともだち

鈴木純 作

ブロンズ新社 | 2024 | 32p | 26×21 | 1400円 | 小学低から | 帰化植物、命、自然、四季

身近によく見かけるシロツメクサ。まん丸のひとつの花のように見えるが、実は小さな花がいっぱい集まっている。小さな花の中に雌蕊と雄蕊がありミツバチが飛んで来て受粉する。花は枯れると地面に落ち、茶色くなった花びらを外すと豆みたいなものが現れ、開くと種がいくつも出てくる。種をまくと芽が出て、いろいろな模様や形の葉を広げる。江戸時代にオランダから割れものを運ぶ際のクッションとして箱に詰めてきたことがツメクサの語源だという。帰化植物に秘められた不思議が、鮮明な写真で紹介される素敵な絵本だ。(野上)

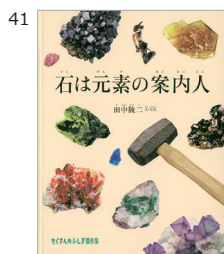


ゾウのはなのあなは、どこまでつついているの？

中山信一 絵 | 高岡昌江 文

あすなろ書房 | 2023 | 38p | 25×22 | 1600円 | 小学低から | ゾウ、鼻、構造、機能

女の子が自分の鼻の穴はどこまで続いているのか、鼻の役目は何かを考え、ゾウの鼻と比べてみる絵本。女の子は、ゾウの鼻を調べて、自分とゾウの鼻では長さや形がまったく違っているのに、作りはそっくりなことに気がつく。さらにゾウの鼻には多くの役目があって、仲間との挨拶や感情のやり取りもできることを知る。明るく楽しい絵と読者に語りかけるような文体が特徴的。巻末には、生後間もなく母ゾウと死に別れ、群れの中で鼻の使い方を学べなかったがきつちよなゾウのエピソードが紹介されている。(坂口)



石は元素の案内人

田中陵二 文・写真

福音館書店 | 2024 | 47p | 26×20 | 1300円
| 小学中から | 元素、鉱物、結晶、周期表

世の中にある物質を形作る元素は、今、わかっているものが118種。そのうち数種の元素について、鉱物の美しい結晶とともに紹介する絵本。身近な塩について、他の元素が加わってピンクや青など鮮やかな色に変化した岩塩を紹介し、元素の構造を説明する。さらに鉱物から鉄や銅、コンブからヨウ素の元素を取り出す方法の説明がある。岩塩の結晶をどんどん割っていても同じサイコロ型になることや、金属の元素は輝く結晶になることなどが写真とともに解説され、目を奪われる。各元素を含む結晶の写真が並んだ周期表付き。(坂口)



くらべた・しらべた 野山のいろいろうんこ図鑑

盛口満文・絵

岩崎書店 | 2023 | 32p | 29×22 | 1800円
| 小学中から | 野生動物、糞、多様性、循環

動物は食べるからうんこをする。うんこを見れば、その動物の暮らしがわかる。著者が拾ったクマからカタツムリまでの大量のうんこは、色や形、大きさがすべて違って、そこから生物多様性も見えて取れる。うんこを食べる動物もいれば、うんこから芽生えた植物を食べる動物もいる。緻密に描かれたうんこの絵を見ていくと、大きな命の輪の中でうんこも役割を担っていることに気づく。ヤモリのうんこについているおしっこや、オオコウモリのカラフルなうんこ、うんこをバラした絵などから思いがけない発見がある絵本。(坂口)



人間は料理をする生きものだ

森枝卓士 文・写真

福音館書店 | 2024 | 40p | 26×20 | 1400円 | 小学中から | 動物、身体、世界、食材

動物は、食物をそのまま食べることができる体を持っているが人間は違う。食べる物を獲ったり育てたり買ってきたりして、それをいろいろな道具を使って調理し、安全においしく食べられるようにする。他の動物たちが体の中でやっていることを、人間は外でやる。それが料理だと著者はいう。ヒトと食を長年考え続けてきた著者が、さまざまな動物と比較したり、世界各地の料理の仕方や伝統的な食文化を豊富な写真で紹介しながら、料理の持つ本質的な意味を多面的に伝え、考えさせる画期的な科学絵本。(野上)



ひき石と24丁のとうふ

大西暢夫 作

アリス館 | 2024 | 40p | 26×21 | 1600円
| 小学中から | 豆腐作り、おばあさん、
視覚障害

岩手県の山の中でひとりで豆腐を作って売っている 90 歳のミナさん取材した写真絵本。子どものときから目に障害があるミナさんは、現在ひとり暮らしで、70 歳から豆腐屋を始めた。機械はいつさい使わず、100 年以上前から使われている石うす（ひき石）で、大豆をひき、薪を使って大豆を煮て、型に流し込んで毎日6時間かけて24丁の豆腐を作る。毎日を丁寧に暮らし、手作り豆腐を作り続けることで人の役に立ちたいと願うミナさんの生き方が写真から伝わり、食べものとは何か、店とは何かについて考えさせられる。（土居）



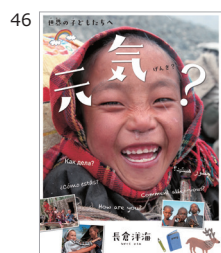
虫のからだ5

め

新開孝文・写真

岩崎書店 | 2024 | 31p | 22×29 | 2900円
| 小学中から | 虫、からだ、機能、多様性

モンシロチョウやカブトムシなど主に5種類の虫の体の構造や機能を部位に分け全5巻で紹介する写真絵本の1冊。身近な虫だが、それらの体の超微細な構造の拡大写真は新鮮だ。同じ複眼でもモンシロチョウは白色、夜行性のカブトムシは弱い光を捉えるために黒色であることや、あるクモは周囲を見渡すために、8つの単眼を持つことなど、驚きの発見がある。同じシリーズの『あし』の巻では、チョウの幼虫のあしにトゲがあって、口から出した糸にひっかけて体を固定させるなど、詳しい説明もあり、虫に対する見方が変わる。（坂口）



元気？ 世界の子どもたちへ

長倉洋海 著

朝日新聞出版 | 2023 | 111p | 29×21
| 3000円 | 小学高から | 多文化、写真、
子ども

40 年以上世界を旅してきた写真家の著者は、どこの子どもたちとも仲良くするすべを心得ているらしい。本書では、5大陸（や島々）27 カ国の子どもたちが紹介されている。どれもその子らしい表情を見せた写真に、地図と、風土や文化や子どもとの出会いを伝える文章がついている。そこから大人の社会が抱える問題が垣間見えることもある。見開きごとにまとまっているのでわかりやすく、多様な文化を知る手がかりになる。巻末の「君に伝えたいこと」では、著者が「世界に飛びだしてみよう」と読者に呼びかけている。（さくま）



読書バリアフリー

見つけよう！自分にあった読書のカチ

読書工房 編著

国土社 | 2023 | 79p | 27×19 | 3500円
| 小学高から | バリアフリー図書、多様性

2019 年に「読書バリアフリー法」ができてから、さまざまな立場の人が楽しく本を読んだり、情報を得たりするためのバリアフリー図書への関心が高まってきた。本書は、イラストと写真がついた読みもので、バリアフリー図書を点字つきさわる絵本、布絵本、大活字本、LL ブック、オーディオブック、マンガ、デジタル図書、さまざまな言語の本に分類し、それぞれの特徴を説明したうえで、多様なニーズに応える「読みやすさ」「わかりやすさ」について考察している。どのような本が必要かが具体的に浮かび上がる。（さくま）



海からいただく日本のおかず1〜3

干物／蒲鉾／魚卵

阿部秀樹 文・写真 | 大日本水産会 魚食
普及推進センター 監修

偕成社 | 2024 | 各40p | 29×24 | 各2400円
| 小学高から | 和食、食材、
魚介類、加工品

日本の伝統的なおかずである魚介類の加工品について、全3巻でその種類や歴史、加工法、食べ方、未来へのつなげ方などを紹介する写真絵本。海に囲まれた日本各地には、独自の加工法や食文化が残る。無形文化遺産としての和食の奥深さや、食材を無駄にしない知恵が、豊富な写真と詳しい解説から伝わる。干物や蒲鉾の巻では、それらが描かれた浮世絵や、魚卵の巻ではキャビアの紹介もあり、さらに子どもが自分で干物や蒲鉾、イクラの醤油漬けを作る工程の写真がある。手作りの体験や食事とセットで楽しむことができる。（坂口）



イチからつくる

ホウキ

イチは、いのちのはじまり

宮原克人 編 | 堀川理万子 絵

農山漁村文化協会 | 2024 | 36p | 27×22
| 2500円 | 小学高から | 道具、ホウキ、手作
り

ホウキモロコシやホウキギ（コキア）をタネから育て、ホウキに仕立てるまでをわかりやすいイラストと写真で紹介する絵本。古来より日本人は、ホウキに他の道具と違う、心も清めるといふ特別な力を感じていた。今では掃除機が広く使われているが、手作りのホウキの良さが見直されている。自然に負荷をかけにくい材料でできているだけでなく、ホウキを作ること自体が楽しい。稲ワラ、シュロ、竹などのホウキの作り方や手入れ方法、外国のホウキの紹介、さらにQRコードから制作工程も視聴可能で、巻末には詳しい解説もある。（坂口）

50



池上彰の若い読者のための アジア現代史 1

大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国

池上彰 著

あすなろ書房 | 2024 | 238p | 21×15
| 2000円 | 中学生から | 歴史、外交

隣国でありながら、学校教育などで十分に学ぶ機会がなく、さまざまな感情を抱く日本人が多い2カ国を深く理解するための読みもの。「国のようす」の章では、国土や政治などについて簡潔に紹介され、「現代史」の章では日本との関係に関する詳細な解説が続く。随所に「池上ポイント」としての要約や、「両班」^{ヤンバン}「KCIA」といったキーワード、さらに「戦争特需」^{シルミド}「実尾島事件」といったわかりやすいコラムが配され、両国とのよりよい関係を築くために若い読者に読んでもらいたいという著者の熱意が伝わってくる。(坂口)

51



絵画をみる、絵画をなおす 保存修復の世界

田口かおり 著

偕成社 | 2024 | 183p | 21×15 | 1600円
| 中学生から | 美術、保存修復、研究、職業

15歳で訪れたイタリアで美術に目覚め、西洋絵画の保存修復を学んで工房で働き、帰国後は展覧会コンサバター（保存専門家）としても活躍する著者。日本では馴染みの薄い修復家という仕事のおもしろさや奥深さを、生き生き伝える読みもの。紀元前のミロのヴィーナスから現代のボルタンスキーやバンクシーまで幅広い作例を通して、絵画の構造、見る大切さ、修復する意味としない意味、作品の生と死、社会との関わりなど、興味深い切り口で考えさせる。なりたいた将来を探り、知りたい気持ちを応援する「みんなの研究」シリーズの1冊。(広松)

52



原発事故、ひとりひとりの 記憶

3.11から今に続くこと

吉田千亜 著

岩波書店 | 2024 | 226p | 18×11 | 960円
| 中学生から | 福島、原発事故、避難、
歴史の継承

2011年3月に起きた福島第一原発の事故は、広い地域に放射能汚染をもたらし、多くの人々が避難を余儀なくされた。著者は、被災地に通い続け、全部で18人の思いをていねいにすくいとっている。生業を奪われた人、県外に母子避難した後シングルマザーになった人、国や東電を相手に生業訴訟を起こした人、放射線量の測定を仲間と始めた人、現場で寝る間も惜しんで救援活動続けた消防士、甲状腺がん罹患した子どもたちなど、さまざまな立場の人から聞き出した生の声を、人のぬくもりとともに記録した読みもの。(さくま)

53



それはわたしが 外国人だから？

日本の入管で起こっていること

安田菜津紀 著 | 金井真紀 文・絵
| 高橋清 法律監修ヘウレーカ | 2024 | 183p | 19×13 | 1800円
| 中学生から | 入国管理局、外国人、差別

ガーナ国籍の両親のもと、日本で生まれたリアナさん、命の危険を感じてトルコから来日したクルド人のアハメッドさん、戦前から日本で暮らしてきた、朝鮮半島にルーツのある石日分さん^{そくいるぶん}について、著者が取材し、彼らが直面するさまざまな「壁」について考える。また、出入国在留管理局に収容されて命を失ったスリランカ出身のウィシュマさんの家族にも取材している。移民と難民の違いの説明や、入管法の解説、難民・移民フェスの紹介もある。日本在住の外国人にとって、日本の法律がもたらす困難が具体的にわかりやすい。(土居)

54



だれか、ふつうを教えてください！ 増補新版

倉本智明 著

新曜社 | 2024 | 205p | 19×13 | 1900円
| 中学生から | 障害、人間関係、共生

視覚障害のある著者が、子ども時代の野球遊びや、駅のプラットホームから落ちた経験などを交えながら、「共生」「ふつう」といった社会的概念を問い直す哲学エッセイ。「健常者」と「障害者」は社会のあり方によって相対的なものであり、直面する困難も障害の軽重でひとくくりにはできないこと。「わかっている」つもりにならず、目の前の人を知ろうと努めること。そうした他者とのかかわり方のヒントが、ユーモアを交えて語られる。障害を「スティグマ」としがちな社会のルールを見直そうと呼びかける追補を加えた新版。(奥山)

55



恋愛ってなんだろう？

大森美佐 著

平凡社 | 2024 | 223p | 19×13 | 1600円
| 中学生から | 恋愛、性、歴史

社会学者の著者が、中学生たちと問答を繰り返すスタイルで書かれた「恋愛」論。第1章「恋愛ってなんだろう？」では、性の多様なあり方、「友だち」「推し」といった関係について。第2章「恋愛にはルールがあるの？」では、告白や接触、インターネット恋愛やデートDVについて。第3章「恋愛は、私たちの社会とどうかわっているの？」では、「恋愛」「結婚」の歴史や海外の状況などが語られていく。具体的な情報をもとに、固定的な「恋愛」観が解きほぐされ、他者とのかかわり方を問い直すきっかけになる。(奥山)

まだまだあります おすすめ本

絵本 読み物 ノンフィクション



すこしとおくへ
おおちくにひろ 作
| きくちき絵
| 32p | 27×22
| 1500円 | 幼児から



ちいさな木
角野栄子 作
| 佐竹美保 絵
| 偕成社 | 2023 | 32p
| 22×27 | 1300円 |
| 幼児から



つちたち
ミロコマチコ 作
| Gakken | 2024
| 32p | 31×24
| 1400円 | 幼児から



ニコニコハンバーグ
及川賢治/竹内蘭子 作
| 文溪堂 | 2024
| 32p | 24×22
| 1500円 |
| 幼児から



ゆうぐれ
平岡瞳 作
| 小学館 | 2023 | 32p
| 18×19 | 1600円
| 幼児から



**わたしの
おにんぎょうさん**
でくねいく 作
| 偕成社 | 2023 | 32p
| 21×25 | 1600円
| 幼児から



あやしい猫えほん1
ねこまがたけ
ばけねこ
しゅぎょうのやま
加門七海 作 | 五十嵐
大介 絵 | 東雅夫 編
| 岩崎書店 | 2023
| 32p | 29×23
| 1700円
| 小学低から



ヤマビカリヤ
西表島のヤマネコの
おはなし
軽部武宏 作
| 小峰書店 | 2024
| 32p | 30×24
| 1700円
| 小学低から



魔女の一日
魔女になるための秘密
飯島都陽子 作
| 山村浩二 絵
| 金の星社 | 2023
| 47p | 24×24
| 1800円
| 小学中から



ピースのいえで
たかどのほうこ 作
| 童心社 | 2023 | 48p
| 23×19 | 1400円
| 小学低から



ぼくは、ういてる。
なかがわひろ 作
| のら書店 | 2024
| 51p | 21×16
| 1500円
| 小学低から



**やっぱり
犬がほしい**
スギヤマカナヨ 作
| アリス館 | 2023
| 64p | 23×16
| 1500円
| 小学低から



**いいわけはつづくよ
どこまでも**
岡田淳 作
| 田中六大 絵
| 偕成社 | 2024
| 141p | 22×16
| 1200円
| 小学中から



**暗き面に
能面ひっそり**
佐藤まさこ 作
| アンマスコ 絵
| BL出版 | 2023
| 167p | 21×16
| 1600円
| 小学中から



アナタノキモチ
安田夏菜 作
| 文研出版 | 2023
| 261p | 20×14
| 1600円
| 小学高から



さよならミイラ男
福田隆浩 作
| 講談社 | 2024
| 186p | 20×14
| 1400円
| 小学高から



ともだち
椰月美智子 作
| 小学館 | 2024
| 239p | 19×13
| 1300円
| 小学高から



短編小学校4
**6年1組
すきなんだ**
吉野万理子 作
| 丹地陽子 絵
| 静山社 | 2024
| 172p | 19×13
| 1200円
| 小学高から



**学校に行かない
僕の学校**
尾崎英子 作
| ポプラ社 | 2024
| 278p | 20×13
| 1600円
| 中学生から



うんこ虫を追え
館野鴻 作
| 福音館書店 | 2024
| 39p | 26×20
| 1300円
| 小学中から



**アマゾンのかしき
な森へようこそ!**
先住民の声に耳を
すませば
南研子 著
| 合同出版 | 2023
| 159p | 22×16
| 1800円
| 小学高から



**カイト1000匹が
教えてくれたこと**
谷本雄治 文・写真
| 文研出版 | 2023
| 135p | 22×16
| 1500円
| 小学高から



**保護ねこ
ものがたり**
大塚敦子 著
| ポプラ社 | 2024
| 142p | 20×14
| 1400円
| 小学高から



待ってる! 甲子園
青島特別支援学校
ベースボール部の挑戦
日比野 著
| ポプラ社 | 2024
| 157p | 20×14
| 1800円
| 小学高から



**女の子でも総理
大臣になれる?**
国会への道
辻元清美 文
| 偕成社 | 2024
| 199p | 21×15
| 1600円
| 中学生から



**世界ぐるぐる
怪異紀行**
どうして「わからない
もの」はこわいの?
奥野克己 監修
| 奥野克己 他 著
| 河出書房新社
| 2024 | 187p
| 19×13 | 1420円
| 中学生から



**食べものから学ぶ
現代社会**
私たちを動かす
資本主義のカラクリ
平賀 著
| 岩波書店 | 2024
| 194p | 18×11
| 940円
| 中学生から



**平安のステキな!
女性作家たち**
川村裕子 著
| 早川圭子 絵
| 岩波書店 | 2023
| 239p | 18×11
| 990円
| 中学生から

おすすめ！ 世界の子どもの本

世界の絵本



ねこは わたしの まねばかり

クォンユンドク 作 | キムファン 訳

あかね書房 | 2023 | 韓国 (韓国語) | 33p
| 25×24 | 1600円 | 幼児から | ネコ、まね、
変身

家の中にいる「わたし」は、ネコが自分のまねばかりすると語る。わたしとネコは、いっしょに新聞紙の下に隠れたり、ハエを追いかけたり、花の匂いをかいだりする。夕方には「わたし」の母親が仕事から帰るのを不安げに待つ。「わたし」は、窓の外で他の子どもたちが遊んでいるのを見て、今度は「わたし」がネコのまねをして、勇気を出して外に出ることを決意する。「わたし」がネコに変身する様子はユーモラスで、同時に、一歩踏み出した「わたし」の行動に読者も力づけられる。豊かな韓国文化も絵から伝わる。(土居)



ぼくのサビンカ

ラデック・マリー 文 | 出久根育 絵・訳

ブロンズ新社 | 2023 | チェコ共和国 (チェコ語) | 32p | 22×22 | 1400円 | 幼児から
| ネコ、ネコの暮らし、ペット

サビンカは男の子が飼っている愛らしいネコ。サビンカがどんな暮らしをしているのか、食事やトイレ、遊び、いたずらなど、ネコの生活を男の子の目線から描く。サビンカが朝起きて伸びをする様子や、お気に入りのおもちゃで遊ぶ様子、男の子が寝たあとに庭に出て行ってネコたちが集会をしている様子など、ネコの表情がとても生き生きと描かれている。男の子の腕に抱かれて喉をごろごろ鳴らすサビンカの様子から、男の子とネコが一緒にいる時間がいかに大切に幸せであるかが、伝わってくる。(神保)



わたしたちのケーキの わけかた

キム・ヒョウン 作 | おおたけきよみ 訳

偕成社 | 2023 | 韓国 (韓国語) | 64p
| 25×19 | 1500円 | 幼児から | きょうだい、
家族、誕生日、割り算

5人きょうだいの「わたしたち」は、なんでも5つに分けねばならない。ケーキも牛乳もチキンも扇風機の風も、たった1人のおじさんも。ほしいものを手にするために、1人ずつが知恵をしぼり、計算し、理屈をこねてアピールし、サバイバルする生活がゆかいに描かれる。5人きょうだいの次女だった作者自身の体験から生まれた物語。言い合い、取り合い、譲り合い、そして分かち合い。わたしは誕生日に怪我をして親を独り占めした後、またきょうだいのよさを実感する。密度の濃い家族関係、ディテールに宿るユーモアが温かい。(広松)



ゆきのひ

サム・アッシャー 作・絵 | 吉上恭太 訳
徳間書店 | 2023 | イギリス (英語) | 34p
| 30×22 | 1700円 | 幼児から
| おじいちゃん、そり、雪

朝目が覚めると、雨が降っていてとても寒い。ぼくは何もしたくないのに、おじいちゃんは「じゃあ、とくべつなことをしよう」と言って、ぼくを町へ連れ出す。おじいちゃんはお店で材料を買い、図書館で作り方の本を借りると、家に戻って早速そり作りにとりかかる。そりが出来上がるころには、外はいちめんの雪。ふたりは、できたそりに乗って冒険に出かける。子どもとおじいちゃんの冒険を描くシリーズの1冊。日常の中に、いつのまにか不思議な世界が入り込んできて、どきどきわくわくさせられる。(さくま)



おじいちゃんのくるみのき

アミ=ジョン・パケット 文
| フェリシタ・サラ 絵
| ひさやまたい 訳
評論社 | 2023 | アメリカ (英語) | 40p
| 29×24 | 1600円 | 小学低から | 家族、
時間、木

エミリアの家の庭には、クルミの木が2本立っている。大きい方はおじいちゃんの木。子どもの頃、海の向こうから家族で引っ越ししてくるとき、おじいちゃんは故郷のクルミの木から実をもちて持ってきた。それを鉢に植え、庭におろしたら大きな木に育ったのだ。その木に実ったクルミを、母さんも子どもの頃にもらい、もう1本の木に育てた。そして今日、クルミの実をもらったエミリアも、おじいちゃんから教えてもらい、土に植えて育てることになる。クルミの木とともに紡がれる家族の歴史や、世代を超えて続く時間を感じられる。(さくま)



おばあちゃんのにわ

ジョーダン・スコット 文
| シドニー・スミス 絵 | 原田勝 訳
偕成社 | 2023 | アメリカ (英語) | 41p
| 25×25 | 1600円 | 小学低から | 庭、
土作り、ミミズ、祖母と孫

ポーランドからの移民だった祖母と孫の心の交流を描く。祖母が貧しい中でも日々丁寧に生活をしてきたことは、絵の隅々から伝わってくる。ミミズを活用して土作りをする祖母の庭では豊かに野菜が実る。しかしその家があった場所には大きなビルが建つことになり、祖母は孫の住む家に引き取られる。孫は祖母が寝起きする部屋の窓辺でミニトマトを栽培することにし、ミミズをつかまえるために雨の中、出かける。祖母の想いや価値観が、孫の世代に受け継がれていることが、静謐さに満ちた絵を通して伝わってくる。(神保)



きみが生きるいまのおはなし

ジュリー・モースタッド 作 | 横山和江 訳
文研出版 | 2023 | カナダ (英語) | 48p
| 27×23 | 1800円 | 小学低から | 時間、
概念、哲学

時計やカレンダーの数字は、時刻や月日を教えてくれる。でも「時間」ってなんだろう？ 目には見えない時の概念を、身近なものにたとえて感覚的にとらえる。種が花を咲かせて散っていくこと。クモが糸をつむぐこと。夕日が少しずつ沈むこと。髪が伸びること。早くなったり遅くなったり、ずっと続くかと思うと一瞬で消える。白黒にピンクを基調にしなが、カラフルな場面を効果的に挿入し、思考を揺さぶる展開がみごと。象徴的な絵と短い詩的な言葉で、多角的に考えさせながら、答えをせかさず、読後に余韻を残す。(広松)



じかんをまもれなかったクマのはなし

ジャン=リュック・フロマンタル 文
| ジョエル・ジョリヴェ 絵
| しみずけい 訳
河出書房新社 | 2023 | フランス (フランス語) | 46p | 27×22 | 1720円 | 小学低から
| 時計、時間管理、ストレス、クマ

人間と暮らすクマが主人公。寝坊して朝食を抜き、バスに乗り遅れ、学校に遅刻。時間割も間違えて失敗ばかり。それもこれもクマが時計を読めないせい。時計の読み方の特訓を受け、時間を守るようになり、勉強も絶好調に。でもスケジュール管理ができるようになると、習い事や用事を詰め込みすぎ、燃え尽き症候群でバツタリ。山中でのんびり休養をとったクマが発見したこととは？ 時計の読み方や時間管理について学びながら、エスカレートする管理の愚かさを笑い飛ばす。大切な時間の過ごし方もユーモラスに伝える。(広松)



つきよのアイスホッケー

ポール・ハーブリッジ 文
| マット・ジェームス 絵
| むらおかみえ 訳
福音館書店 | 2023 | カナダ (英語) | 39p
| 32×21 | 1800円 | 小学低から | 自然、
冒険、アイスホッケー、月夜

舞台は12月のカナダ。森のビーバー池が凍りつき、満月の夜を迎えると、決行の合図だ。少年たちは声を掛け合い、険しい雪道の先にある池を目指す。最高のスケートリンクとなった氷の上で、アイスホッケーの試合を始める。体が宇宙へ飛ぶような猛スピード。汗が氷になり、冷たい空気が胸がひりつく。そして闇の中から獣の気配も迫る。自然と共に暮らすカナダの作家が描く、少年たちの一夜の冒険。勢いのある筆致、闇夜に白抜きで浮かび上がる一人称のテキストが、臨場感をもって、奥深い自然と少年たちの鼓動を伝える。(広松)

10



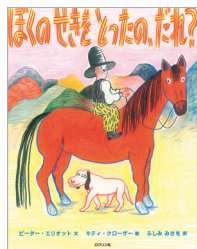
なんにもおきない まほうのいちにち

ベアトリーチェ・アレマーニャ 作
| 関口英子 訳

ポリフォニープレス | 2023 | フランス (フランス語) | 42p | 30×22 | 2000円 | 小学低から
| 自然、ゲーム、退屈

休暇のたび、ママとぼくは森の中の家で過ごす。パパはいない。机に向かって仕事に明け暮れるママのそばで、ぼくは毎日ゲームばかり。怒ったママに取り上げられたゲーム機をなんとか取り返すと、ぼくは憂鬱な気分ですぐ外へ出かけるが、うっかりゲーム機を沼に落としてしまう。途方に暮れてふと周りに目を向けると、そこにはカタツムリの行列やたくさんのキノコが。土の感触、太陽の光、風のにおい……。主人公が自然を五感で感じ、心を解放させていく様子がみずみずしく描かれる。(笹岡)

11



ぼくのせきをとったの、 だれ?

ピーター・エリオット 文 | キティ・クローザー 絵 | ふしみみさを 訳

ロクリン社 | 2023 | ベルギー (フランス語) | 27p | 27×21 | 1900円 | 小学低から
| 多様性、共同生活

ぼくは狩りをしに、友達ジムとジェフを家に残して出かけた。獲物を持って家に戻ると、ぼくの椅子に知らないやつがいて、ちゃっかり居座っていた。新入りのココは勝手にぼくのパジャマを着るし、ぼくの馬に乗るし、やりたい放題。でもいっしょにいるうちに、ココがいるのも悪くないとわかってきた。ところが今度はココが出かけている間に、別の新入りが居座るのだった。どんどん知らない誰かが居座り増えていく。ひとりずつ外見も習慣もみごとに異なるコミカルな絵で荒唐無稽な展開が、多様性と共存、寛容の大切さを感じさせる。(広松)

12



イヌワシつかいのエルジャン

イチノブ・ガンバートル 文
| パーサンスレン・ボロルマー 絵
| 津田紀子 訳

あかつき教育図書 | 2023 | モンゴル (モンゴル語) | 32p | 26×22 | 1600円 | 小学中から
| モンゴル、伝統文化、鷹匠

モンゴルの最西部に暮らすカザフ族には、イヌワシを使って狩りをする伝統があり、1300年の歴史がある。その「鷹匠文化」は、2016年にユネスコの世界無形文化遺産に登録されている。作者は現地に赴いて取材をし、雄大な大自然の中でイヌワシと心通わせながらイヌワシ使いになるための訓練をする少年エルジャンと、それを時には厳しく、時には優しく見守る父親の姿を描いた。イヌワシ使いになったことを祝う家族の様子から、伝統を守りぬく決意と、生きることへの真摯な向き合い方が伝わる。(神保)

13



シッカとマルガレータ 戦争の国からきたきょうだい

ウルフ・スタルク 文 | スティーナ・ヴィルセン 絵 | きただいえりこ 訳

子どもの未来社 | 2023 | スウェーデン (スウェーデン語) | 42p | 22×22 | 1700円
| 小学中から | 戦争、難民、意地悪

東の国に住む少女シッカは、ある日とつぜん始まった戦争のせいで、家族から離れてひとりで避難しなくてはならなくなる。一方西の国に住む少女マルガレータは、ある日両親から「ビックリさん」が家に来ると言われて、イヌがもらえるのだと楽しみにしていたら、来たのがシッカだったのでがっかりする。ふたりの少女は反目しあうが、ある雷雨の日をきっかけに、お互いの思いをわかり合うようになっていく。言葉の違う見知らぬ国にやってきた子の心細さも、他者を簡単には受容できない子の不満も、リアルに伝わってくる。(さくま)

14



ナンティー・ソロ 子どもたちを鳥にかえたひと

デイヴィッド・アーモンド 作 | ローラ・カーリン 絵 | 広松由希子 訳

BL出版 | 2023 | イギリス (英語) | 32p | 25×29 | 1700円 | 小学中から | 変身、魔法、偏見

町にナンティー・ソロという女性がやってきて、子どもたちを鳥にかえられるという。大人たちはナンティーに近づかないように言うが、ドロシーという少女がナンティーにツバメに変身させてもらい空をとぶ。ドロシーは子どもたちに自分の体験を伝え、大勢の子どもたちが鳥になって楽しむ。ナンティーは、子どもたちの様子を見て抗議した大人たちをも鳥に変身させ、大人たちも空を自由に飛ぶことを楽しむ。ソフトなタッチで描かれた空を飛び鳥の姿がおおらかで楽しく、寓話的な物語から大人の持つ偏見について考えさせられる。(土居)

15



わたしは地下鉄です

キム・ヒョウン 文・絵 | 万木森玲 訳

岩崎書店 | 2023 | 韓国 (韓国語) | 60p | 25×27 | 1800円 | 小学中から | 地下鉄、乗客、暮らし

「わたしは きょうも 走ります」と語るのは、ソウルを走る地下鉄2号線。毎日同じ時間、同じ道を、人々を乗せて走る。長い導入の画面により、映画のように絵本の世界に引き込まれる。乗客ひとりずつの背景を地下鉄が語っていくと、冒頭ではほとんど白黒で描かれていた人が豊かな色彩を帯びていく。子煩悩なサラリーマン、娘の元へ急ぐ海女のおばあさん、順位に翻弄される受験生……。それぞれに名前があり、家族があり、生活の物語がある。前後の見返しが象徴するように、読後は周囲を見る目も温かくなるようだ。(広松)



世界で最後の花

絵のついた寓話

ジェームズ・サーバー 作 | 村上春樹 訳

ポプラ社 | 2023 | アメリカ (英語) | 111p
| 16×24 | 1600円 | 小学高から | 戦争、
平和、愛、寓話

「みなさんもおぞんじのように、第十二次世界大戦があり」という書き出しにドキッとする。文明も自然も破壊され、芸術も愛も消失し、落ちぶれた人間を見捨てる動物たち。とぼけた線画と一見シュールな短文で綴る寓話だ。第二次世界大戦の開戦時に描かれた古典作品だが、今、戦争を繰り返す現代社会への痛烈な風刺とも読める。どん底から再生した人類の行方は？ 短編小説やコマ漫画で著名な作者。7歳の娘への献詞と最後の一輪の花に、平和への切なる願いを感じる。大人と読めば低学年でも、戦争を考えるきっかけに。(広松)



ミーのどうぶつBOOK

ハリエット・ヴァン・レーク 作

| 野坂悦子 訳

朝北社 | 2023 | オランダ (オランダ語) | 33p
| 25×19 | 1500円 | 小学高から | 動物、
観察、ユーモア

毎日いろいろな動物と一緒に過ごす女の子ミーと、動物たちとの16のエピソードを収録したお話集。ある暑い日、ミーはウマに「あなたのうえでねてみたい、かまわない？」ときき、ウマのおなかの上で、心臓の動きや鼻息を感じながら寝転んで過ごす。ほかにも、森でネコと風の音を聞いたり、カタツムリのすることを1日中みっていたり、メウシと海に入って波に揺られたり。ミーと動物たちの対等で思いやりに満ちた関係と、ゆったりした時間の流れが感じられ心地良い。のびやかな線のイラストも自由でユーモラス。(笹岡)

世界の読みもの



バレエ団のねこピンキー

ノエル・ストレトフィールド 作

| スザンヌ・スーバ 絵 | 田中潤子 訳

のら書店 | 2023 | イギリス (英語) | 24p
| 23×18 | 1400円 | 小学低から | ネコ、
バレエ、活躍

ネズミ捕りとしてバレエ団に雇われた黒猫のピンキーは、バレエが大好き。リハーサルも公演もすべて観て、演目を知りつくしている。しかし肝心の仕事はというと、実はネズミが怖くて役立たず。ある日、リハーサル中にネズミがあらわれ、驚いた主役のバレリーナが足をくじいてしまう。怒った支配人に解雇されたピンキーだったが、突然の代役で困っていたバレリーナに振付を教え、公演は無事成功する。ピンキーが名誉挽回するまでの顛末が楽しい絵物語。クラシックな雰囲気絵の絵も洒落ている。(笹岡)



夏のサンタクロース

フィンランドのお話集

アンニ・スヴァン 作

| ルドルフ・コイヴ 絵 | 古市真由美 訳

岩波書店 | 2023 | フィンランド (フィン語)
| 266p | 18×12 | 810円 | 小中から
| 不思議、妖精

フィンランドの「童話の女王」と呼ばれる著者の1933年出版の童話集46編から13編を選んで翻訳した作品集。フィンランドの民話や伝説の要素をとり入れたふしぎな物語が特徴で、子どもと動物や小人や魔物とのかかわりが描かれた物語や、恋愛物語が入っている。表題作は、サンタクロースが夏に魔物ヒーシにブーツをとられて子どもたちが取り返す話。情景描写が美しく、透明感のある文章が、北欧フィンランドの厳しい冬の寒さや自然の美しさを表現している。ペンで描かれた原書からの挿絵も魅力的。(土居)



ぼくは学校ハムスター1

ハンプリーは友だちがかり

ベティ・G・バーニー 作 | ももろ 絵

| 尾高薫 訳

偕成社 | 2023 | アメリカ (英語) | 211p
| 20×15 | 1500円 | 小中から
| ハムスター、学校、飼育

ロングフェロー小学校の26番教室で飼われているハムスターのハンプリーは、好奇心旺盛で賢い。人間の言葉を理解して読み書きもできる。その上、ケージの鍵を内側から開けて抜け出すこともできる。でもそのことを人間は知らない。そんなハンプリーが、週末ごとに交代で預かってくれる子どもたちの家で、教室ではわからない彼らの一面や困りごとを知って、持ち前の行動力でそれを解決しようと奮闘する姿を描く。登場する子どもたちも個性的で読者が親近感を抱くことができる。3巻まで翻訳されている。(神保)



わたしは あなたは
ベアトリーチェがアジザの、アジザ
がベアトリーチェの伝記を書く話
 ジューズィ・クアレンギ作
 | よしとみあや 訳
 解放出版社 | 2023 | イタリア (イタリア語)
 | 117p | 22×16 | 1800円 | 小学中から
 | 友だち、伝記、移民

ペアになってお互いの伝記を書くという公共図書館主催のプロジェクトに、8歳で3年生のベアトリーチェと、モロッコ出身で母とふたりでイタリアに住んでいる10歳で2年生のアジザが参加し、ペアを組むことになる。ベアトリーチェの家族は、最初、アジザを偏見の目で見ることが、伝記を書くためにお互いの家族に聞き取りをする活動を通して、アジザと母に親しみを抱くようになる。巻末に、読者が「伝記を書くためのメモ」というワークシートがある。ふたりが相違点と同時に共通点も見つかるのが楽しい。(土居)



アナグマの森へ
 アンソニー・マゴーワン 作 | 野口絵美 訳
 徳間書店 | 2023 | イギリス (英語) | 135p
 | 19×13 | 1500円 | 小学高から
 | ヤングケアラー、家族、自然

酒浸りの父、知的障害のある兄ケニーと暮らすニッキーは、ある日、村の不良たちに呼び出される。ケニーとふたりで行ってみると、犬とアナグマを戦わせるので手伝えと言われる。ニッキーは密かにアナグマたちを逃がし、噛み傷だらけで倒れていた犬と、取り残された赤ん坊のアナグマを家に連れ帰る。そして助けたアナグマの子を森に返すために巣を探し回る。子どもたちが、不良たちにねらわれながらも奔走している姿を目の当たりにした父親も、やがて家族を守るために動き出す。読み応えがある家族再生の物語。(さくま)



しかばねの物語
チベットのむかしばなし
 星泉 編訳 | 蔵西 絵
 のら書店 | 2023 | 中国 (チベット語) | 207p
 | 21×16 | 1600円 | 小学高から | 杵物語、魔法、食べもの

主人公のデチュー・サンボが大師に言われて、恵みをもたらす^{しかばね}屍を墓場から連れてくるという大枠の話の中に、道中、屍が語る話が12編収められている「杵物語」の昔話集。屍の話は、傲慢な王さまや魔法使いに苦しめられる庶民が、動物などの助けを借りてやりかえすという起伏あるストーリーで、チベットの食べものやことわざなども盛り込まれている。しゃべってはいけないと言われていたデチュー・サンボが、話に引き込まれつい感想を漏らしてしまい、そのたびに屍が墓場に飛んで帰ってしまう繰り返しもおもしろい。(奥山)



水平線のかなたに
真珠湾とヒロシマ
 ロイス・ローリー 著
 | ケナード・パーク 画 | 田中奈津子 訳
 講談社 | 2023 | アメリカ (英語) | 77p
 | 22×16 | 1400円 | 小学高から
 | 真珠湾攻撃、戦争、ヒロシマ

真珠湾攻撃下のハワイ、原爆投下された広島、日米両国で暮らした経験のある作者の個人的体験という3つのパートに分けて、戦争の前後の出来事が41の短い詩で綴られる。アメリカと日本のどちらにも戦争によって突然奪われた命があり、それぞれの国の視点から見た戦争への思いが交錯する。あとがきには、終戦後東京で暮らした作者が、後にアメリカで絵本作家になる若き日のアレン・セイに偶然出会っていたことが記される。その気づきを通して、ともに地球に暮らす人として平和を作り出していくことの大切さがわかる。(神保)



図書館がくれた宝物
 ケイト・アルバス 作 | 榊理絵 訳
 徳間書店 | 2023 | アメリカ (英語) | 381p
 | 19cm | 1900円 | 小学高から | 図書館、きょうだい、疎開

第二次世界大戦さなかの1940年のイギリス。12歳のウィリアムを頭に、エドモンド、アンナの3人きょうだいは身寄りを失い、ロンドンから田舎に疎開する。陰湿ないじめや、十分な寝食が得られないつらい日々のなか、ホッとできるのは村にある図書館だけ。ドイツ人の夫をもつ司書のミューラーさんも村人から白い目で見られているのを知ると、子どもたちはミューラーさんと親しく心を通わせ合うようになる。個性豊かな子どもたちが本や図書館や理解者から力をもらって生きていく様子がリアルに描かれ、幸せな結末もうれしい。(さくま)



西の果ての白馬
 マイケル・モーパゴ 作
 | ないとうふみこ 訳
 徳間書店 | 2023 | イギリス (英語) | 197p
 | 19cm | 1600円 | 小学高から | 妖精、魔法、コーンウォール地方

小さな村を舞台にした物語が5つ入った連作短編集。表題作では、子どもたちが罠にかかったこびとノッカーを助け、お礼に願いをかなえてもらう。「巨人のネックレス」では、貝殻を集めていた少女が波にのまれ、たどりついた坑道で奇妙な鉱夫に出会う。「アザラシと泳いだ少年」では、足が不自由で学校でいじめられる少年が、海でアザラシと暮らすようになる。他の2編にも、農場を守る「小さい人」や、動物たちを癒す力をもつ「魔女」が登場し、数や論理では測れないものを畏敬する感覚を、すぐれた語り口で伝えている。(さくま)



パップという名の犬

ジル・ルイス 作 | さくまゆみこ 訳
評論社 | 2023 | イギリス (英語) | 374p
| 19×13 | 1600円 | 小学高から | 野良犬、
ペット、友情

飼い主の少年から引き離され、捨てられた子犬パップ。街でくらす野良犬の群れに加わり、生きるすべを身に着けていく。ところがある日、仲間とともに捕獲され、保健所に。その後新たな飼い主に引き取られるも、再び収容されそうになり、逃げだしたパップは少年と再会する。しかし喜びもつかの間、闘犬として売られてしまう。獣医だった著者による描写はリアリティがあり、次々と展開するストーリーも読者をひきつける。人間への信頼を失いそうになりながらも、愛された記憶を頼りに生き抜く姿に胸を打たれる。(笹岡)



クロニクル千古の闇7

魔導師の娘

ミシェル・ペイヴァー 作
| さくまゆみこ 訳 | 酒井駒子 装画
評論社 | 2023 | イギリス (英語) | 368p
| 19×13 | 1800円 | 小学高から
| ファンタジー、古代、オオカミ

オオカミのウルフとともに生き、自分の魂を他の動物の体の中に入れ込む能力である〈生霊わり〉ができるトラクと、ワタリガラス族で、邪悪な〈魂食らい〉の娘で魔術の才のあるレンは結ばれ、ともに生活をしている。ところがある日、レンはトラクに何も告げずにひとりで北方へ旅に出る。トラクはウルフとともにレンを追いかけて、レンがナイギンというイッカク族の美青年と旅しているのを知り嫉妬する。6000年前を舞台にしたファンタジー。厳しい自然の中で生きる人びとが想像力豊かに描かれている。9巻まで刊行の予定。(土居)



希望のひとしずく

キース・カラブレーゼ 著 | 代田亜香子 訳
理論社 | 2023 | アメリカ (英語) | 311p
| 20×14 | 1800円 | 中学生から | 願いごと、
秘密、奇跡、井戸

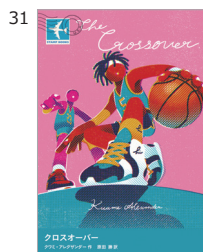
オハイオ州の小さな町にある、願い事をかなえてくれる伝説の井戸。アーネストたち中学生3人は、ある日この井戸の底に通じるほら穴を見つける。3人は町の人たちの願い事を知り、かなえてあげたいと考える。そんなときアーネストは、亡くなった祖父に片づけを頼まれた屋根裏のガラクタの中に、役に立ちそうなものがあるのに気づく。一見バラバラだったものが、有機的に結びつき、願いがかなっていく物語は、読書の楽しさをたっぷり味わわせてくれる。章立てが短く、展開も早いので、長編を読み慣れない子にも。(笹岡)



車いすでジャンプ!

モニカ・ロー 作 | 中井はるの 訳
小学館 | 2023 | アメリカ (英語) | 317p
| 19×13 | 1500円 | 中学生から | 車いす、
モトクロス、バリアフリー

父親とふたりで暮らす12歳のエミーには脊椎に障害がある。でも彼女の夢はモトクロス選手になること。車いすで滑って思いきりジャンプすると、誰からも縛られない解放感を味わえる。夢を実現するために、親友アレエとオンラインショップを運営し、売上でモトクロス用車いすを買う資金を貯めていた。ところが校内で転倒したことで、学校はエミーの思いとは違った形の支援へと動き出す。エミーは自分が何をなすべきか悩みながら考え、学校のバリアフリー化を訴える。当事者主体の支援のあり方について考えさせられる。(神保)



クロスオーバー

クワミ・アレグザンダー 作 | 原田勝 訳
岩波書店 | 2023 | アメリカ (英語) | 250p
| 19×13 | 1800円 | 中学生から | 双子、
バスケットボール、父親

中学生のジョシュ・ベルは、双子のJBとともにバスケットボール部の選手で、JBにライバル意識を抱いている。父親はクロスオーバーという技を得意とした元プロのバスケット選手で、ふたりを指導しているが、体調が思わしくない。JBに彼女ができたことでジョシュは気持ちが不安定になり、試合中にJBにボールをぶつけ、部活停止になる。そんな中、郡大会の決勝戦が迫る。レイアウトや文字に工夫があり、詩のような文章がリズムミカルで、バスケットボールのゲームの躍動感や、ジョシュのひりひりした心の動きが伝わる。(土居)



モノクロの街の夜明けに

ルータ・セペティス 作 | 野沢佳織 訳
岩波書店 | 2023 | アメリカ (英語) | 398p
| 19×13 | 2500円 | 中学生から
| ルーマニア、革命、歴史

1989年はベルリンの壁崩壊など社会主義国に次々革命が起きた年として歴史に刻まれる。その年の最後に政権崩壊したのはルーマニアだった。チャウシェスク大統領の独裁下で市民を相互監視させる過酷な社会状況を、男子高校生クリスティアンの視点から描く。秘密警察との裏取引で密告者にならざるをえなかったクリスティアンは、自分を秘密警察に売ったのは誰かと疑惑を抱きつつも、なんとか社会を変えようと行動に移していく。息詰まる緊迫したストーリー運びからは、革命へと動いていく社会状況が克明に伝わってくる。(神保)



優等生サバイバル

青春を生き抜く13の法則

ファン・ヨンミ 著 | キム・イネ 訳

評論社 | 2023 | 韓国 (韓国語) | 230p
| 19×13 | 1500円 | 中学生から | 学校、
進路、恋愛

トップの成績で有名な高校に入ったジュノは、優等生になろうとがんばる。でもクラスメートの多くが家庭教師についたり、カリスマ講師のいる塾に通ったりしているので、いい成績がなかなかとれずに悩む。そんな時、友人に誘われて入った時事討論サークルで多様な価値観をもつ仲間に出会い、ジュノは、これまでの自分は、本当は何をしたいのかも考えずに、ひたすらいい成績を取ることばかりを目ざしていたことに気づく。現代の韓国の高校生の様子が伝わり、自分の意志を持つとうとする主人公に寄り添って読める。(さくま)



わたし地球クラブ

キャリー・ファイヤーストーン 著

| 服部理佳 訳

小学館 | 2023 | アメリカ (英語) | 382p
| 20×14 | 1500円 | 中学生から | 環境問題、
選挙、黒人差別

12歳のメアリーはSDGsについて考える特別授業の「地球クラス」で、ショーンという黒人の少年と「生ごみ堆肥」問題について取り組むことにする。クラスは、展示など、町へ訴える手段を考えるが、現町長に阻止される。町では町長選が行われており、現町長とメアリーの学校の先生が争っていた。また、メアリーの親友のルーシーは原因不明の病気で学校を長期に欠席していた。メアリーは不安と困難を抱えながらも自分たちの力で環境問題を訴えていこうとする。子どもたちの底力が頼もしく感じられる。(土居)



わたしの心のきらめき

シャロン・M・ドレイパー 作

| 横山和江 訳

鈴木出版 | 2023 | アメリカ (英語) | 357p
| 20×14 | 1600円 | 中学生から | 障害、
夏休み、挑戦、初恋

脳性麻痺の少女が、会話補助装置と出会ったことで、生活が一変する様子を一人称で描いた物語『わたしの心のなか』の続編。12歳の夏休み、メロディは障害をもつ子のためのキャンプがあることを知り、参加する。乗馬や水泳など、自分には無理だと諦めていたことにも挑戦し、初めての体験を重ねていく。言葉や肢体に不自由がありながらも、好奇心旺盛で明るくユーモアがある主人公が魅力的で、読んでいて元気が出る。同世代の仲間との友情や、淡い初恋も織り込まれ、満足のいく読後感が得られる。(笹岡)

世界のノンフィクション



海にしずんだクジラ

メリッサ・スチュワート 文

| ロブ・ダンラヴィ 絵 | 千葉茂樹 訳

| 藤原義弘 日本語版監修

BL出版 | 2023 | アメリカ (英語) | 34p
| 24×29 | 1800円 | 小学低から | クジラ、
深海、生態系

70年の生涯を終え、静かに深海に沈んだクジラ。そこから新たに50年にわたる驚くべき命の連鎖が始まる。最初にヌタウナギ、ヨコエビの仲間が近づいてクジラの肉を食べ、そのエビをねらってタコが集まる。骨にはびっしりホネクイハナムシやバクテリア。数百種、数百万の命を支えることになる。この特異で豊かな生態系は「鯨骨生物群集」と呼ばれる。深海の静寂な世界と力強く生きる命を、落ち着いた絵で描いた絵本。巻末の解説では、本文に登場した22種の珍しい生物の姿と特徴を、よりわかりやすい絵で紹介している。(坂口)



心をひらいて、音をかんじて

耳のきこえない打楽器奏者

エヴェリン・グレンニー

シャノン・ストッカー 文 | デヴォン・

ホルズワース 絵 | 中野怜奈 訳

光村教育図書 | 2023 | アメリカ (英語)
| 40p | 27×23 | 1600円 | 小学低から
| 音楽家、伝記、難聴

音は物が振動し、空気を震わせ、鼓膜を揺らし、それを神経が脳に伝えることで認識される。エヴェリンは、10歳頃から耳の神経の不調で難聴になった。しかし、中学校で打楽器を指で弾いてみると、その振動が音として直接感じられると気づき、さらに感覚を研ぎ澄まして、空気の震えを全身で感じ取るまでになった。音楽への情熱を持ち続け、グラミー賞を受賞する打楽器奏者になるまでの半生を、音の響きがほとぼしうな絵で伝える絵本。だれもが可能性を秘めている、と読者を勇気づける。QRコードで演奏も聴ける。(坂口)



ヨシ
3万7千キロをおよいだ
ウミガメのはなし
 リン・コックス 文 | リチャード・ジョーンズ 絵 | いわじょうよしひと 訳
 あすなろ書房 | 2023 | アメリカ (英語) | 32p
 | 24×28 | 1500円 | 小学低から
 | アカウミガメ、生態、回遊、帰巢

日本の漁船によって偶然助けられ、ヨシと名付けられた5歳ほどのウミガメの実話。網にかかって傷ついたヨシは、南アフリカの水族館で20年過ごし、遠距離を泳ぐトレーニングを経て、居場所を知らせる発信器をつけ海に放された。2年2か月後、動物が泳いだ距離としては最長の3万7千キロを泳ぎきって、生まれ故郷オーストラリアの浜辺で産卵するまでを、淡く暖かみのある絵で紹介する絵本。網に絡まったり、大海原を1頭で泳いだりする場面では読者も応援したくなる。あとがきにヨシが泳いだ軌跡の地図がある。(坂口)



さようなら
プラスチック・ストロー
 ディー・ロミート 文 | ズユエ・チェン 絵 | 千葉茂樹 訳
 光村教育図書 | 2023 | アメリカ (英語) | 31p
 | 28×22 | 1600円 | 小学中から | 海洋汚染、SDGs、プラスチック

プラスチック製品による海洋汚染は待ったなしの状況にまで追い込まれている。プラスチックストローはその一部にすぎないが、環境保護のため、子どもたちが行動を起こすための身近なアイテムだ。ストローの歴史を、数千年前のシュメールの女王の墓から見つかった金とラピスラズリ製の物からはじめ、麦わら、紙、曲がるストロー、プラスチック製品への変遷を見ていく。そして、プラスチックごみが環境に与える影響と解決策を伝える。小さな一歩が次の解決策につながるよう、読者に行動を起こすメッセージを送る絵本。(坂口)



死者のひみつ
世界のミイラ
 マット・ラルフス 文 | 大英博物館 監修 | ゴールディ・ライト 絵 | 山根玲子 訳 | 和田浩一郎 日本語版監修
 BL出版 | 2023 | イギリス (英語) | 61p
 | 30×26 | 3000円 | 小学中から | ミイラ、副葬品、考古学研究

ミイラは、エジプトに限らず世界各地で発見されている。最古のミイラはチリ沿岸部で見つかり、製作方法から死者への敬意がうかがえる。さらに、アルゼンチンの高地、北極海の小島、アルプス、火山灰の中、泥炭地、岩塩坑、砂漠など、あちこちで発見されている。日本の即身仏もミイラだ。人為的に作られたものから自然にできたものまで、ミイラとなった時代や、文化的背景、保存状態を踏まえながら、ミイラとその副葬品を研究することで、謎にせまる絵本。最後に、発見場所を示す世界地図、用語解説、参考文献付き。(坂口)



この絵ときたら！
新しい絵本の時代をつくった
コールデコット
 ミシェル・マーケル 文 | バーバラ・マクリントック 絵 | 福本友美子 訳
 ほるぷ出版 | 2023 | アメリカ (英語) | 37p
 | 28cm | 2400円 | 小学中から | 絵画、歴史、絵本

アメリカで毎年最もすぐれた絵本の画家に送られる賞には、19世紀イギリスの画家ランドルフ・コールデコットの名がついている。本書はこの画家の伝記絵本。ランドルフは、小さいときから暇さえあれば絵を描いていたのだが、それが気に入らない父親に銀行に就職させられる。それでもあきらめず、病弱な体で、当時としては画期的な勢いや動きのある絵を次々に生み出していく。本人の絵もいくつか紹介されているし、歴代のコールデコット賞に輝く画家たちが登場するページもあり、訳も楽しい。巻末には資料もついている(さくま)



動物園の24時間
 ラン・クック 作 | スティシー・トーマス 絵 | 竹内薫 訳・監修
 小学館 | 2023 | イギリス (英語) | 63p
 | 26×20 | 1600円 | 小学中から | 飼育員、動物園、職業

朝7時、イギリスの動物園に動物たちの鳴き声が響き渡る頃、飼育員たちの1日が始まる。その様子を主人公のタイカ君と見てまわる臨場感あふれる絵本。餌の準備、動物の健康診断、夜行性動物の世話、新しい動物の受け入れと、24時間の仕事が、コマ割りのイラストと吹き出しで紹介される。新プロジェクトの「うんち発電」、事故で欠損した動物の体の人工装具、別種のサンゴのハイブリッド飼育、野生へ返す環境作りなど、あまり知られていない取り組みも語られ、どこから読み始めても楽しめる。巻末に用語集付き。(坂口)



グレタ・トゥーンベリ
みんなで止めよう！気候危機
 トレイシー・ターナー 著 | トム・ナイト 絵 | 飯野真由美 訳
 文溪堂 | 2023 | イギリス (英語) | 143p
 | 22×16 | 1500円 | 小学高から | 気候変動、環境活動

環境活動家グレタの18歳までの伝記。すべての漢字にふりがながつき、多くのイラストで紹介している。特に優れているのは、気候変動についてわかりやすく詳細に説明している点だ。カーボン・フットプリント、海面上昇、北極の気候変動、6度目の大量絶滅、危機的状況の海など。さらに彼女の自閉スペクトラム症と脳の多様性についても取り上げている。随所に「わたしたちにできること」というコーナーが設けられ、読者が、気候変動を止めることを単に願うだけでなく、そのための行動を起こすことを訴える読み物。(坂口)

まだまだあります おすすめ本

絵本 読み物 ノンフィクション



おちびさんじゃないう
マ・マイヤーズ 文
| ヘウオン・ユン 絵
| まえざわあきえ 訳
イマジネーション・プラス | 2023 | アメリカ
(英語) | 44p
| 24×27 | 1700円
| 幼児から



きつねがはしる
チエコのわらべうた
ヨゼフ・ラダ 絵
| 木村有子 編訳
岩波書店 | 2023
| チェコ (チェコ語)
| 39p | 22×16
| 1100円 | 幼児から



サンタさんはどうやってえんとつをおりるの?
マック・バーネット 文
| ジョン・クラッセン 絵
| いちだいづみ 訳
徳間書店 | 2023
| アメリカ (英語) | 32p
| 27×20 | 1700円
| 幼児から



しっぽばなし
アム・シュカ・ラビシャ
ンカール 文
| ツシヤール・ワイエダ/
マユール・ワイエダ 絵
| 谷川俊太郎 訳
世界文化社 | 2023
| インド (英語) | 32p
| 26×26 | 3600円
| 幼児から



ぼくのじゃがいも
ジョシュ・レイシー 作
| モモコ・アベ 絵
| みやさかひろみ 訳
こくま社 | 2023
| イギリス (英語) | 26p
| 25×22 | 1500円
| 幼児から



まんげつのよるのやくそく
エリック・ローマン 作
| 長友恵子 訳
朔北社 | 2023
| アメリカ (英語) | 32p
| 24×22 | 1500円
| 幼児から



おしえてくれる? わたしのなまえ
ナイジェル・グレイ 文
| ベサン・ウェルビー 絵
| もりうちすみこ 訳
ゴブリン書房 | 2023
| イギリス (英語) | 32p
| 29×25 | 1600円
| 小学低から



ギゾギゾ! ゾンゴめまのものがたり
エミリー・ウィリアムソン
& ガーナのハッサニ
ヤ・イスラム学校の先生
と生徒たち 作
| さくまゆみこ 訳
庫の工房 | 2023
| ガーナ (英語) | 36p
| 26×25 | 1500円
| 小学低から



世宗大王をさがせ
キム・ジン 文
| チョン・ジュン 絵
| わたなべなおこ 訳
TOY Publishing | 2023 | 韓国 (韓国語)
| 40p | 25×25
| 1800円 | 小学低から



だれのせい?
ダビデ・カリ 作
| レジーナ・ルック・
トゥーンベレ 絵
| ヤマザキマリ 訳
green seed books
| 2023 | イタリア (イタ
リア語) | 40p | 30×22
| 2200円 | 小学低から



リジーと雲
テリー・ファン/エリッ
ク・ファン 作
| 増子久美 訳
化学同人 | 2023
| カナダ (英語) | 48p
| 31×22 | 2000円
| 小学低から



イエローバタフライ
アレクサンドル・シャト
ビン 作
| 講談社 | 2023
| ウクライナ (ウクライ
ナ語) | 63p | 30×21
| 2300円 | 小学中から



おぼけのこ
テルヒ・エークボム 著
| 稲垣美晴 訳
求龍堂 | 2023
| フィンランド (フィン
語) | 256p | 25×18
| 3200円 | 小学高から



アンナの戦争
キンダートランスポート
の少女の物語
ヘレン・ピーターズ 作
| 尾崎愛子 訳
偕成社 | 2023
| イギリス (英語)
| 349p | 19×13
| 1700円 | 小学高から



いまにヘレンがくる
メアリー・ダウニング・
ハーン 作
| もりうちすみこ 訳
偕成社 | 2023
| アメリカ (英語)
| 253p | 19×13
| 1600円 | 小学高から



シーリと氷の海の海賊たち
フリーダ・ニルソン 作
| アレクサンデル・ヤン
ソン 絵 | よこのなな 訳
岩波書店 | 2023
| スウェーデン (スウェ
デン語) | 365p | 21×15
| 2300円 | 小学高から



ナイチンゲールが歌ってる
ルーマー・ゴッテン 作
| 臨明子 訳
| 網中いつる 絵
岩波書店 | 2023
| イギリス (英語)
| 393p | 18×12
| 980円 | 小学高から



最後の語り部
ドナ・バーバ・ヒグエラ
著 | 杉田七重 訳
東京創元社 | 2023
| アメリカ (英語)
| 365p | 20×14
| 2800円 | 中学生から



**ディス・イズ・マイ・
トゥルース
わたしの真実**
ヤスミン・ラーマン 作
| 代田亜香子 訳
静山社 | 2023
| イギリス (英語)
| 381p | 20×14
| 1900円 | 中学生から



**ローラ・ディーンに
ふりまわされてる**
マリコ・タマキ 作
| ローズマリー・ヴァレ
ロ・オコーネル 画
| 三辺律子 訳
岩波書店 | 2023
| アメリカ (英語)
| 295p | 21×15
| 2500円 | 中学生から



**ガウディさんと
ドラゴンの街**
パウ・エストラダ 作
| 宇野和美 訳
教育評論社 | 2023
| スペイン (スペイン語)
| 42p | 29×22
| 1800円 | 小学中から



**寓話に生きた人
イソップ
その人生と13の物語**
イアン・レンドラー 文
| バメラ・ザガレンス
キー 絵 | 山下愛純 訳
化学同人 | 2023
| アメリカ (英語) | 63p
| 28×23 | 2200円
| 小学中から



**くらべて発見
食べものはどこか
らきたの?**
ユリア・デュア 作
| 本木栄 訳 | 藤原辰史
日本語版監修
| ぼるぶ出版 | 2023
| ドイツ (ドイツ語)
| 35p | 34×25
| 2900円 | 小学中から



**ニコラ・テスラ
ものがたり
“電気の魔術師”と
よばれた男**
アザデー・ウェスター
ガード 文 | フリア・
サルダ 絵 | 大山泉 訳
評論社 | 2023
| アメリカ (英語)
| 40p | 26×21
| 1600円 | 小学中から



**ホッキョククジラの
ボウ**
200年のたび
アレックス・ボースマ 作
・絵 | ニック・バイエン
ソン 作 | 千葉茂樹 訳
小学館 | 2023
| アメリカ (英語) | 48p
| 27×22 | 1800円
| 小学中から



**ある日、戦争が
はじまった**
12歳のウクライナ人
少女エバの日記
エバ・スカリツカ
著 | 神原里枝 訳
小学館クリエイティブ |
2023 | イギリス (英語)
| 191p | 21×15
| 1500円 | 小学高から



**それって本当?
メディアテラシー
はじめる**
ジョイス・グラント 著
| キャスリン・マルコッ
ト 絵 | 片柳伊佐 訳
岩崎書店 | 2023
| カナダ (英語) | 54p
| 26×23 | 2500円
| 小学高から



**ぼくが子どもだった
ころ**
エーリヒ・ケストナー
作 | ホルスト・レムケ
絵 | 池田香代子 訳
岩波書店 | 2023
| ドイツ (ドイツ語)
| 316p | 18×12
| 880円 | 中学生から

おすすめ！日本と世界の子どもの本

Japanese and Translated Children's Books

2025

一般社団法人 日本国際児童図書評議会

発行日：2025年3月31日 第1刷

発行人：宇野和美

選書・執筆：奥山 恵、坂口美佳子、さくまゆみこ、笹岡智子、神保和子、土居安子、

野上 暁、広松由希子

編集進行：高野直子、堀内まゆみ

デザイン・レイアウト：山崎美紀

表紙画：田島征彦

特別協賛：一般財団法人 日本児童教育振興財団

一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

TEL: 03 6273 7703 FAX: 03 6273 7708

E-mail: info@jbby.org

<https://jbby.org/>

© JBBY, 2025

